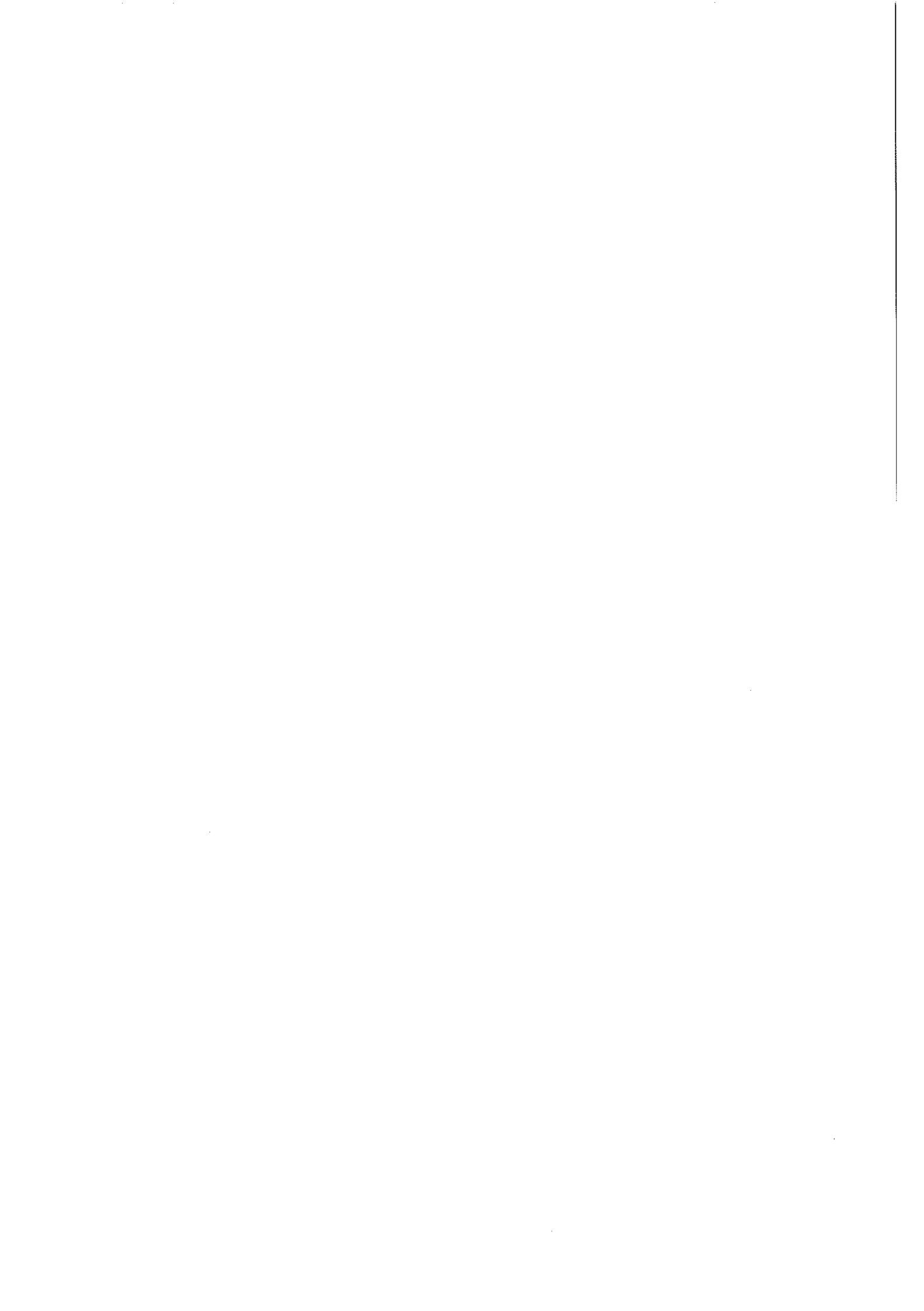


平成 12 年度

大分大学生涯学習教育研究センター年報

平成 13 年 3 月

大分大学生涯学習教育研究センター



はじめに

大分大学生涯学習教育研究センター長 山崎清男

IT革命等の言葉が示すように、複雑化、高度化した現代社会において、コンピュータなどの情報機器をぬきにして、生涯学習の推進は考えられなくなってきたといつてよい。よくインターネットという言葉を耳にするが、インターネットとはいいろいろなネットワークにまたがるネットワーク、すなわち「ネットワークのネットワーク」を意味しているといえよう。換言するなら、いろいろなコンピュータをつなぐネットワークということである。

インターネットの普及により人々の学習方式、コミュニケーション等が急速に変化しつつある。パソコンのキーをたたくだけで、さまざまな情報が入手可能な時代である。今日の生涯学習の推進において、中心的役割を担うものはインターネットの活用であると言っても過言ではないように思われる。その意味においてインターネットの活用は、従来とは異なった生涯学習の在り方を推進する可能性をもっている。特定の場所等で行われる学習に参加しにくい人々にとって、インターネットの活用は学習機会を生み出す支援になろう。

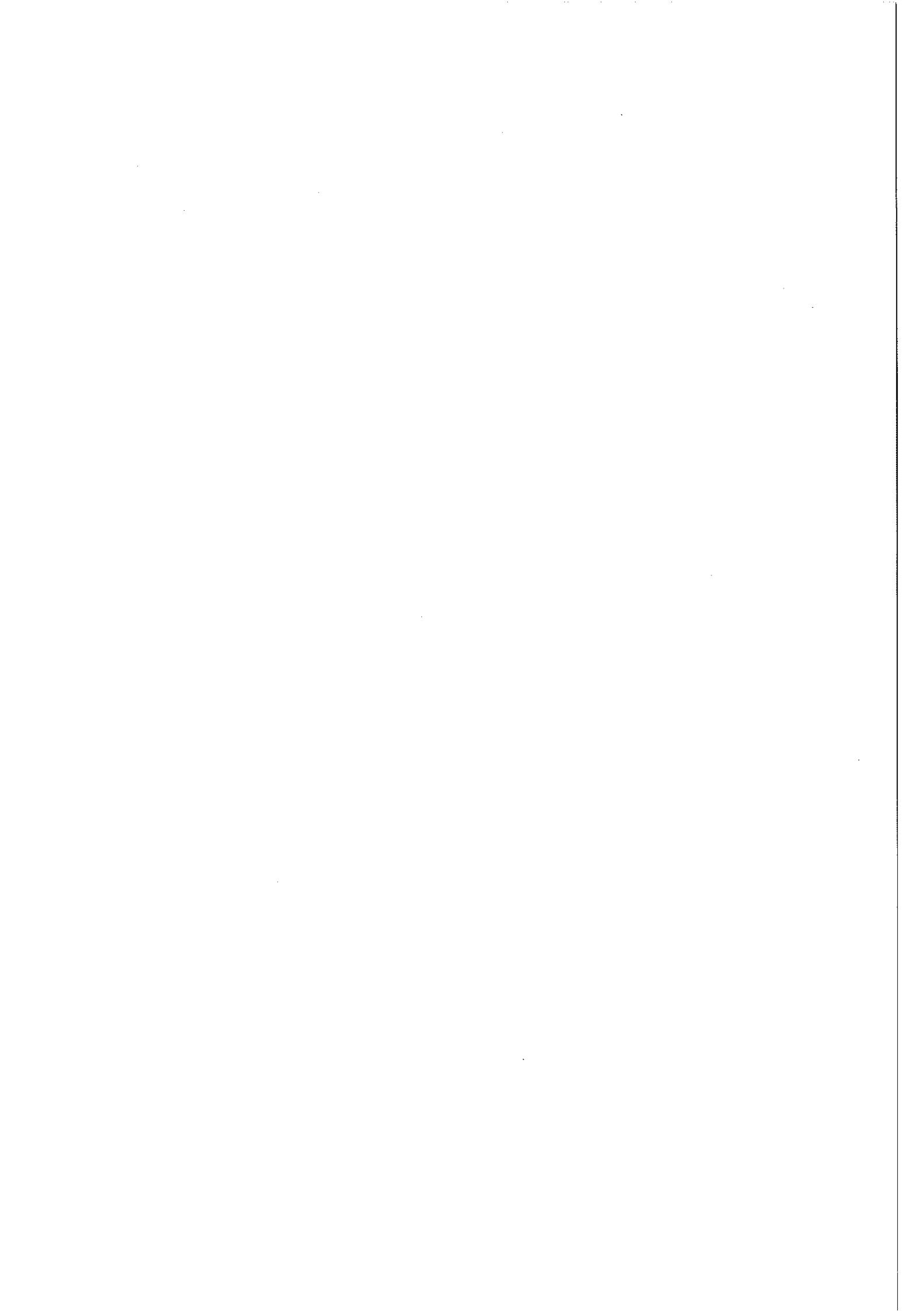
このような状況の中で、生涯学習の推進に対し大学は果たすべき役割を再考する必要にせまられている。「開かれた大学」、「地域の中の大学」等は、今後大学が進むべき一つの方向を示していると思われる。

「地域に開かれた大学」を創造するため、また生涯学習に関する諸事業や研究等を担当する機関として生涯学習教育研究センターが設置された。現在国立大学99校のうち25校に生涯学習にかかる機関としてのセンターが設置されている。平成8年10月に学内措置として設置された生涯学習教育研究センターは、平成10年度より省令施設になり今年度で3年目をむかえた。

大分大学が地域に開かれた大学として、地域の人々にさまざまな学習の機会を提供すべき役割などを果たす「窓口」として、当センターは日々業務を遂行してきた。センター長、専任教官2名、学外の客員研究員2名、学内選出のセンター員3名、運営委員会、公開講座専門委員会によって運営を行ってきた。スタッフ的には少ない人数であるが、それぞれのスタッフが献身的に活動し、もちろん不十分な点は多々あるが評価すべき一定の活動成果をあげえたと考えている。

そのような中で、今年度1年間の活動成果を報告させていただきたいと思う。本年報をご覧いただき、当センターの今後の充実・発展のために、忌憚のないご意見やご批判をいただければ幸いである。

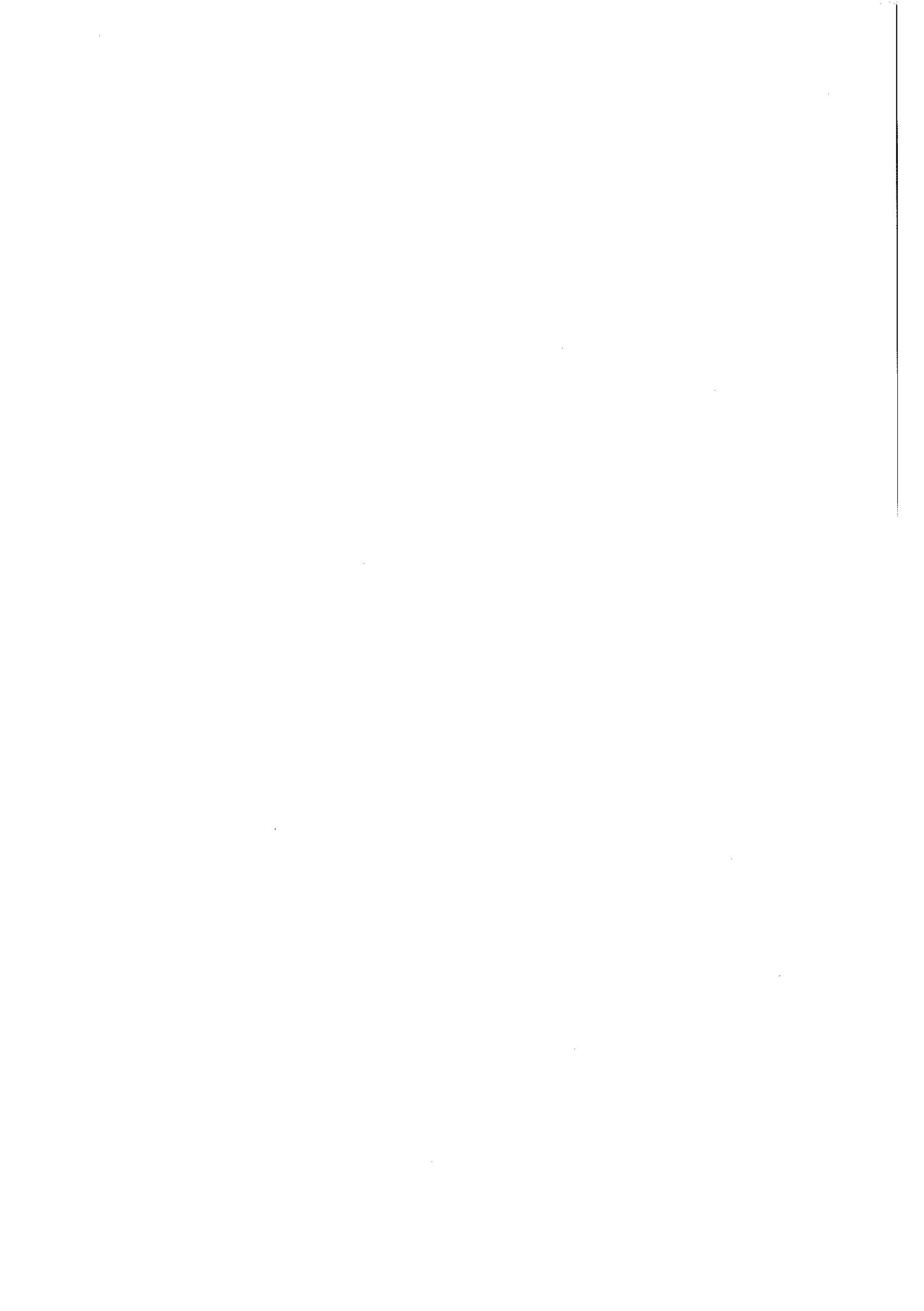
いうまでもないことであるが、当センターの活動は教職員の皆さんをはじめとして、学内外の多くの人々によって支えられ推進されている。心よりお礼申し上げたい。



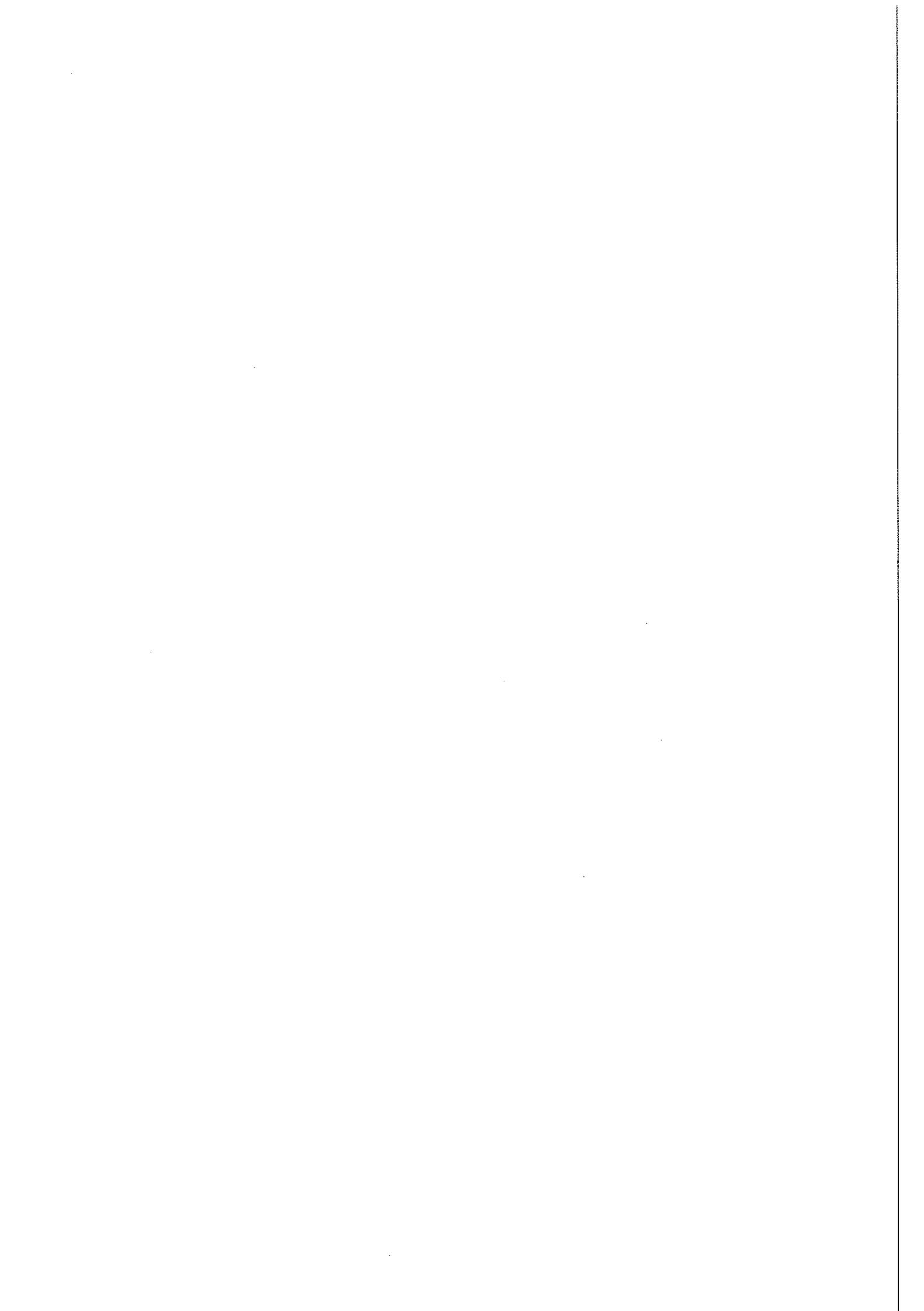
目 次

はじめに

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| I | 大分大学における生涯学習推進体制の整備 | 1 |
| II | 平成12年度事業抄録 | 5 |
| III | 平成12年度大分大学生涯学習教育研究センター事業報告 | 7 |
| 1 | 大分大学公開講座・公開授業 | 7 |
| 2 | 諸謝金使用事業 | 15 |
| 3 | 衛星通信を活用した研修プログラム | 19 |
| 4 | 大学開放イベント | 21 |
| 5 | 生涯学習講演会「大学開放推進の組織づくり・人づくり」 | 23 |
| 6 | 第4回大分大学福祉フォーラム | 24 |
| IV | 研修報告 | 25 |
| 1 | 第22回全国国立大学生涯学習系センター協議会 | 25 |
| 2 | 第12回大学開放の在り方に関する研究会 | 26 |
| 3 | 第6回生涯学習実務者協議会 | 28 |
| 4 | 平成12年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会 | 29 |
| V | センター機能高度化への取り組み | 31 |
| 1 | 家庭教育プログラムの研究開発 | 31 |
| 2 | 文部省委嘱「大学における生涯学習推進」研究プロジェクト | 33 |
| 3 | 地域生涯学習支援システムの整備に向けて | 35 |
| VI | 資料 | |
| 1 | センター関係諸規則 | 37 |



I 大分大学における生涯学習 推進体制の整備



大分大学における生涯学習推進体制の整備

1 生涯学習教育センター設立の経緯

- 平成7年2月 ・高度生涯教育研究センター検討委員会を設置し、将来計画委員会から同委員会へ構想案の検討を諮問
 - 6月 ・高度生涯学習教育研究センター検討委員会から将来計画委員会に構想案を答申
 - 9月 ・将来計画委員会から高度生涯学習教育研究センター検討委員会に構想案の再検討を諮問
 - 12月 ・高度生涯学習教育研究センター検討委員会から将来計画委員会に構想案を答申
-
- 平成8年1月 ・将来計画委員会で構想案を承認し、評議会に付議
 - 5月 ・評議会で構想案を承認し、生涯学習教育研究センター設置準備委員会を設置
 - 9月 ・評議会に設置計画案（中間報告）を報告、併せて学内措置による「大分大学生涯学習教育研究センター」の設置を提案
 - 10月 ・評議会で設置計画案を承認し、併せて学内措置による「大分大学生涯学習教育研究センター」の設置を決定
 ・「大分大学生涯学習教育研究センター規則」「大分大学生涯学習教育研究センター管理委員会規程」「大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程」の制定
 ・学内措置による「大分大学生涯学習教育研究センター」を設置
-
- 平成9年2月 ・「大分地域の大学等における生涯学習に関する連絡会」を開催
 - 4月 ・「大分地域大学等生涯学習協議会」（参加11機関）を発足
 - 5月 ・第1回「大分地域大学等生涯学習協議会」を開催
 - 6月 ・大分県主催「いきいき学遊ネットワーク」に参加
 - 11月 ・センター運営委員会の下に「公開講座専門部会」を設置（公開講座委員会は解散、業務を引き継ぐ）
-
- 平成10年2月 ・センター省令化に向けて「センター規則」等の改訂
 - 4月 ・文部省令第21号による省令施設に昇格
 ・専任教官として教育学部より阿久根求教授着任
 ・事務担当部局が、教育学部会計係から事務局庶務課庶務係に変更

- 平成10年 4月
 - ・センター移転（教養教育棟2階3室）
 - ・「公開講座専門部会」を「公開講座専門委員会」に改める
- 6月
 - ・平成10年度第1回「大分地域大学等生涯学習協議会」を開催
- 7月
 - ・客員研究員として岩佐紀雄氏を迎える
- 10月
 - ・専任教官として岡田正彦助教授着任
- 11月
 - ・生涯学習講座開催「家庭の現状と課題を考える」（5回シリーズ）
 - ・平成10年度第2回「大分地域大学等生涯学習協議会」を開催
- 平成11年 3月
 - ・「'99ふくし大分」開催
 - ・生涯学習講演会「大学開放の推進と教職員のあり方」
- 6月
 - ・生涯学習講座「今どきの子どもをどう理解し、関わればよいか－乳幼児期を中心にして－」を開催
 - ・平成11年度第1回「大分地域大学等生涯学習協議会」を開催
- 7月
 - ・S C S利用による遠隔共同講義「障害児・者の自立支援」開催
- 10月
 - ・生涯学習講座「中高年の健康づくり教室」を開催
- 12月
 - ・平成11年度第2回「大分地域大学等生涯学習協議会」を開催
- 平成12年 1月
 - ・第3回大分大学福祉フォーラムを開催
 - ・生涯学習講座「今どきの子どもをどう理解し、どう関わればよいか－少年期・青年前期の子どもへの理解と関与－」を開催
- 3月
 - ・大分大学サテライト・キャンパス・イン・日出を開催

2 平成12年度大分大学生涯学習教育研究センター推進体制整備

12年度の事業として、主に以下のようなことを新たな取組みとして行った。

○学習機会の提供

- ・出前講座：大分大学米水津塾・おおの夢魅塾を主催
- ・公開講座開催：今年度は、センター主催の公開講座を、1講座開講
- ・大分大学生涯学習出張講座：昨年度の「大分大学サテライト・キャンパス」を「大分大学生涯学習出張講座」と名称変更し、大分県日田教育事務所・玖珠町教育委員会との連携により、玖珠町内で講座を開設。
- ・公開授業：教養教育科目について、その半分以下を公開講座と同様の要領にて社会人に開放。平成12年度は10科目を開設し、そのうち5科目に応募者があり、実施された。

○調査・研究・開発

- ・客員研究員：衛星通信を活用した研修システムの研究開発（岩佐紀雄氏）、および大分地域における生涯学習支援システムの研究開発（大分県教育委員会生涯学習課社会教育係長 長松俊博氏）を実施。
- ・プロジェクト研究の推進：生涯学習社会における大学の役割を検討するにあたっては、センターの研究はもちろんのこと、プロジェクト研究によって強力に研究を進めて行く必要がある。本年度は、学長裁量経費で研究推進費を確保し、それぞれのチームで研究を進めた。研究成果については、本年度創刊したセンター紀要への投稿をお願いした。
- ・家庭教育プログラムの研究開発
本年度より3カ年計画で家庭教育プログラムの研究開発を実施する。本年度は初年度ということで、基礎資料として受講者の学習ニーズ調査（調査紙法）および家庭教育に関わりのある学習機会提供者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭）のインタビュー調査を実施した。
- ・諸謝金を使用した事業（III-2 諸謝金使用事業を参照）により、生涯学習に関する研究開発や地域との連携システムの研究開発を推進。
- ・文部省委嘱「大学における生涯学習推進」研究プロジェクトの支援
上記研究プロジェクトの事務局として、研究の推進に協力。

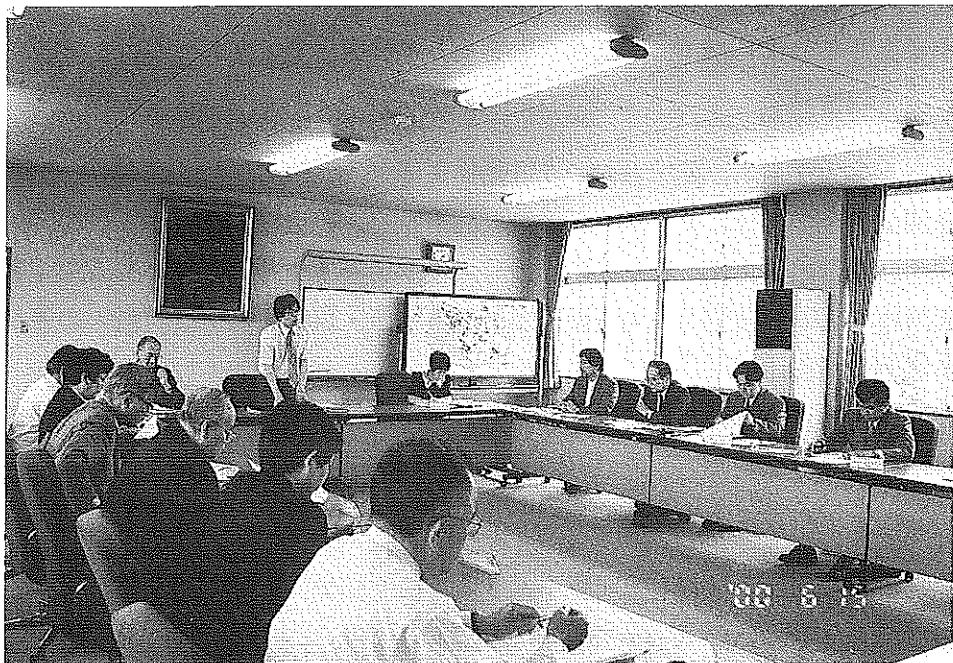
○情報提供・相談

- ・生涯学習相談：本学の社会人の受入れ体制（科目等履修生制度、社会人入学等）、並びに授業内容等の相談、公開講座に関する問い合わせなどがある。社会人の学習意欲に応えて行くためにも情報提供とくに広報の充実が必要である。

○地域との連携

- ・大分地域大学等生涯学習協議会：協議会の機能高度化を図るため、ワーキンググループを編成して、協議会としての調査研究の実施や広報システムの研究開発、共同での学習プログラムの開設などについて検討を行うことを決定。

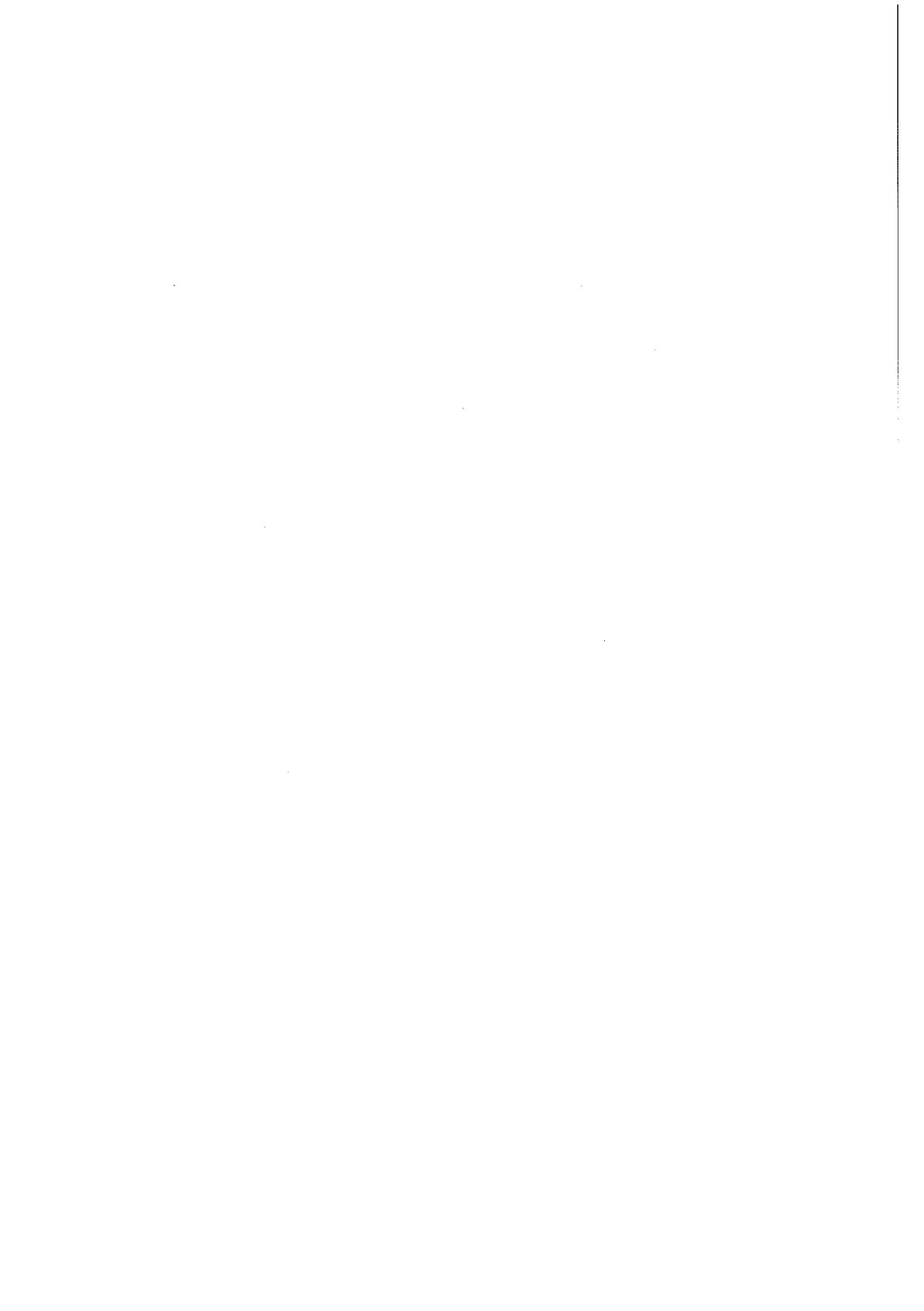
平成12年度 第1回大分地域大学等生涯学習協議会



大分大学生涯学習出張講座イン玖珠



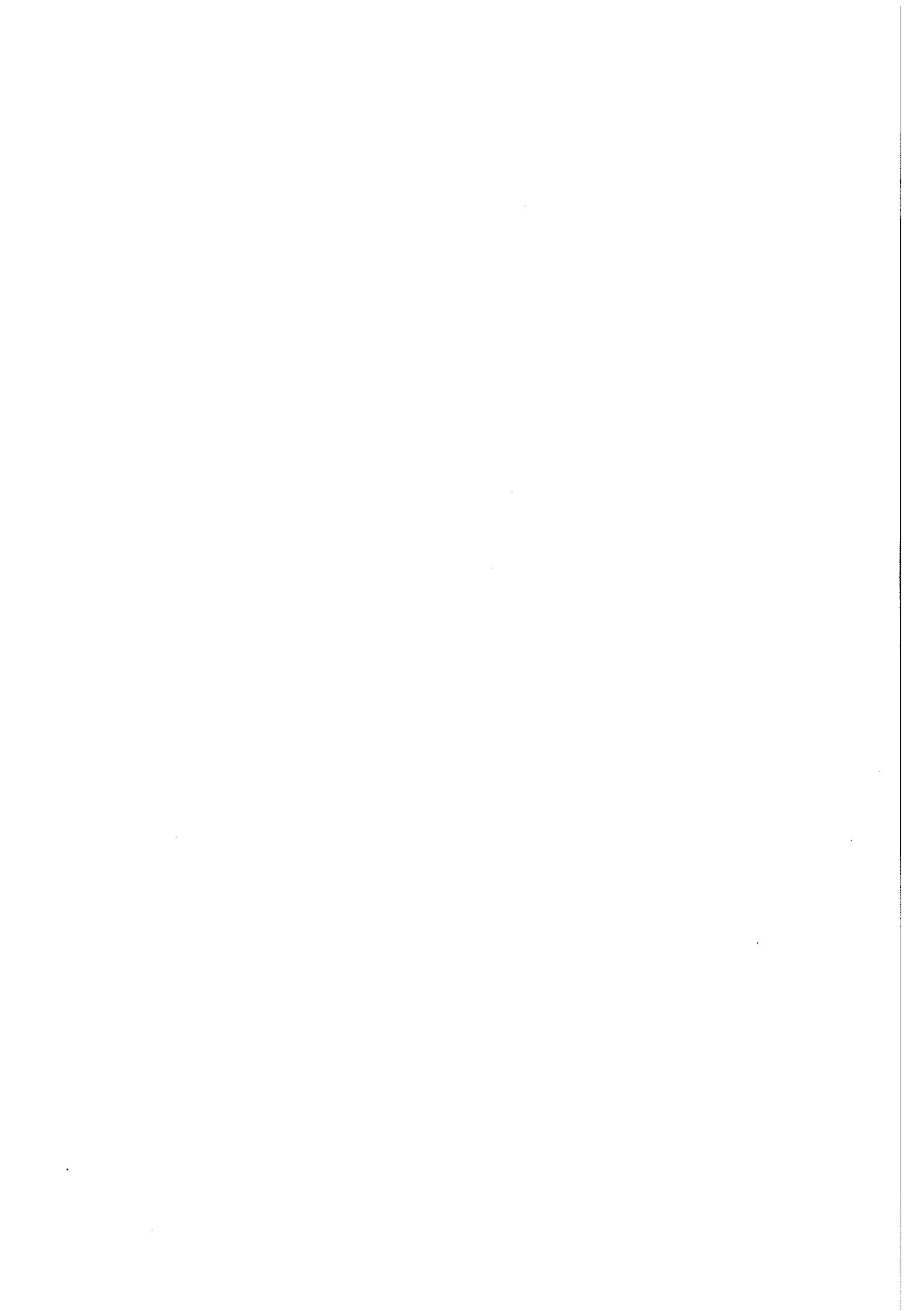
II 平成12年度事業抄録



平成12年度事業抄録

平成12年

- 4月19日 第1回管理委員会（事務局 第1会議室）
4月26日 第1回運営委員会（教養教育棟会議室）
5月11日 第2回管理委員会（事務局 第1会議室）
5月28日 出前講座（米水津塾・おおの夢魅塾）開講式（大分大学）
　　〃 大学開放イベント<生涯学習展示・質問>（大分大学）
6月15日 第1回大分地域大学等生涯学習協議会（大分大学）
6月20日 第3回管理委員会（事務局 第1会議室）
7月31～ 衛星通信活用プログラム
8月2日 「学校カウンセリング研修講座」（大分大学SCS室）
8月2日 第2回運営委員会（教養教育棟会議室）
　　〃 第1回公開講座専門委員会（教養教育棟会議室）
8月18～18日 衛星通信活用プログラム
　　「情報教育基礎研修講座Ⅰ」（大分大学SCS室）
9月18～19日 衛星通信活用プログラム
　　「情報教育基礎研修講座Ⅱ」（大分大学SCS室）
9月28日 第4回管理委員会（事務局 第1会議室）
10月5～6日 第22回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会（北海道）
10月14日 生涯学習講座「家庭教育ワークショップ①」（大分大学）
　　第1回 家庭教育における親の役割
10月21日 生涯学習講座「家庭教育ワークショップ②」（大分大学）
　　第2回 青少年の問題行動とそれへの対処
10月25日 第5回管理委員会（事務局 第1会議室）
10月26日 第3回運営委員会（教養教育棟 会議室）
10月28日 生涯学習講座「家庭教育ワークショップ③」（大分大学）
　　第3回 親と子のこころの絆の形成過程
11月1日 第12回大学開放の在り方に関する研究会（三重県）
11月2日 第6回生涯学習実務者協議会（三重県）
11月11日 生涯学習講座「家庭教育ワークショップ④」（大分大学）
　　第4回 子どもの身体の発達とその援助
11月18日 生涯学習講座「家庭教育ワークショップ⑤」（大分大学）
　　第5回 子育てと親の学び・成長
12月8日 第6回管理委員会（事務局 第1会議室）



1 大分大学公開講座・公開授業

(1) 大分大学全体での公開講座開設状況

表III－1に、平成12年度に実施した大分大学全体の公開講座について、その講座名、実施時間数や受講人数等を示している。講座の数は13（昨年度11講座）、実施時間数は178.5時間（昨年度165時間）、受講者数は364人（昨年度376人）である。募集人数は470人（昨年度480人）、募集人数に対する受講人数の充足率は77.4%（昨年度78.3%）であった。講座数は2つ増加したが、受講者数、充足率などはほぼ横這いの状態である。

今後は、公開講座数および受講者数の増加を図ると共に、公開講座のプログラムの質的向上、大分大学全体としての整合性の確保などに取り組む必要がある。

表III－1 平成12年度大分大学公開講座開設状況

| 講 座 名 | 期 間 | 受講者数 |
|--|---------------|------|
| 泳げない男の子のための水泳教室 | 7月26日～8月1日 | 19名 |
| 泳げない女の子のための水泳教室 | 7月26日～8月1日 | 17名 |
| ちびっこスイミング男子 | 7月26日～8月1日 | 19名 |
| ちびっこスイミング女子 | 7月26日～8月1日 | 20名 |
| 出前講座『大分大学米水津塾』 | 5月28日～3月11日 | 50名 |
| 出前講座『大分大学おおの夢魅塾』 | 5月28日～3月11日 | 35名 |
| 親子で身近な自然に親しむ観察・採集会 | 9月9日～11月11日 | 7組 |
| 発達障害をもつ子どもの自立活動の援助 | 5月23日～6月20日 | 81名 |
| 来て見て作ってマルチメディア | 6月10日～7月22日 | 13名 |
| 新世紀を見つめて—ヨーロッパ文化・金融改革— | 11月11日～11月25日 | 48名 |
| 福祉のための工学、福祉環境工学最前線 —大分大学工学部福祉環境工学科— | 10月21日～10月28日 | 23名 |
| 初心者のためのパソコンとインターネット | 7月26日～9月13日 | 30名 |
| 家庭教育ワークショップ | 10月14日～11月18日 | 13名 |

(2) 公開授業

本年度より、「大分大学公開授業」を開始した。「公開授業」は滋賀大学が全国に先駆けて実施した事業であり、大学の正規の授業科目の一部を開放し、公開講座受講料相当の受講料により受講を可能とするものである。単位等は付与しない。従来の科目等履修生、聴講生などの制度では、検定料や授業料としてかなり高額の料金を払う必要があったが、公開授業では、大幅に安価な料金で大学の正規の授業科目を受けることができる。また、公開授業受講者が学部や大学院の正規学生となる波及効果が期待できるほか、高校を卒業して入学した伝統的学生や講師である大学教員に刺激を与え、授業を活性化できるなどのメリットも期待できる。

以下に「大分大学公開授業開設の趣旨」、「大分大学公開授業実施要領」、「大分大学公開授業の期待される効果」を掲載する。

○「大分大学公開授業」開設の趣旨

近年、大学の地域に対する貢献として、教育・研究機能や施設の開放、いわゆる大学開放を推進する必要性が高まっている。大分大学では、大学開放の一環として、平成12年度より、「大分大学公開授業」を開設している。「大分大学公開授業」は、大分大学の正規学生が受講する教養科目の一部を、地域の人々に開放するものである。

従来、大学の教育機能を地域に開放する方策としては、公開講座を中心として、リカレント教育、研修や講演会等の講師などがあった。

より高度で体系的な学習を望む学習者に対しては、社会人入学、科目等履修生などの制度を活用して大学に登録し、正規の授業科目を履修することになっていた。しかし、これらの制度は、入学試験や受講料などの点で気軽に利用できるものではなかった。

それに対して、今回から実施する「公開授業」は、公開講座の受講料と同額の受講料（5時間以上10時間以内の場合、5,500円）を支払えば、正規の授業科目の一部を受講することができる。

資料1は、「大分大学公開授業」の実施要領である。1科目ごとの募集定員は10名で、15回ある授業のうち、6回以下を「公開授業」として開放する。「公開授業」の受講は正規の単位としては認定されず、修了者には公開講座と同様の修了証が交付される。授業のうちどの部分を開放するかは担当講師の裁量とする。

「公開授業」を実施することで、学習者は大学で正規の授業科目として開設される高度で体系的な学習機会を利用することができます。大学の教員や学生も熱心な社会人受講生と共に授業を進めることで刺激を受け、授業を充実発展させることができると期待できる。「公開授業」の期待される効果について資料2にまとめた。

以上の趣旨をお含みいただき、「大分大学公開授業」の実施に積極的にご協力いただくようお願い申し上げる。

資料1

○「大分大学公開授業」実施要領

- (1) 事業名称を「大分大学公開授業」とする。
- (2) 授業の中で開放する時数は6回(9時間)以下とし、授業のどの部分を開放するかは担当教官の裁量にゆだねる。
- (3) 開放する授業数は、当面年間数科目程度とし、教養教育協議会で開放する科目を選定し、生涯学習教育研究センターが当該業務に協力する。
- (4) 受講資格は、大学の授業についていく能力を有していることが前提となるため、高等学校卒業以上のものに限る(ただし、自己申告とし、卒業証明書等の提出は求めない)。
- (5) 1科目あたりの受講者の定員は10名とする。
- (6) 受講者からは「国立学校における公開講座講習料について」に基づき、公開講座としての受講料を徴収する(入学料および授業料は徴収しない)。
- (7) 科目については、複数のテーマを有しており、地域住民の関心のある分野、あるいは社会人の再教育に関連するテーマのみを公開するものとし、開放するユニットが他のユニットから独立しており、完結した講義ができるものとする。
- (8) その他、公開授業の実施に関する諸業務は公開講座の実施に準じて取り扱うこととする。

資料2

○「大分大学公開授業」の期待される効果

- (1) 受講者は正規の大学の授業を受講することで、質の高い学習を行うことができる。
- (2) 正規の学生と市民が共に学ぶことは、世代間交流としての意義を持つ。
- (3) 正規の学生にとっても、市民にとってもよい刺激となる。
- (4) 鮮明な問題関心と積極的な学習態度を持つ社会人の受講により、授業が活性化する。
- (5) 他の大学開放事業(科目等履修生や社会人入学等)への波及効果が期待できる。

表III-2 平成12年度大分大学公開授業

| 講 座 名 | 期 間 | 受講者数 | 担 当 教 員 |
|------------|---------------|------|-------------------|
| 地方分権と地方財政 | 4月19日～5月31日 | 2名 | 経済学部 内野 順雄 教授 |
| ボランティア社会論 | 4月20日～6月1日 | 2名 | 経済学部 豊島 慎一郎 講師 |
| 福祉と技術 | 4月21日～6月2日 | 3名 | 工学部 池内 秀隆 講師 |
| 子どものこころの育ち | 10月16日～11月20日 | 2名 | 教育福祉科学部 田中 洋助 教授 |
| 大分の水Ⅰ | 11月1日～12月6日 | 4名 | 教育福祉科学部 川野 田實夫 教授 |

*「くらしと福祉(教育福祉科学部 橋本 美枝子 講師)」、「人間・労働と技術の現代史(経済学部 藤原 直樹 助教授)」、「金融とは何か(経済学部 鳥谷 一生 助教授)」、「機械と文明Ⅰ(工学部 中西 義孝 講師)」、「電気の世界Ⅰ(工学部 榎園 正人 教授)」は受講希望者がなかつたため実施されず

本学では、まず教養教育科目に限って公開授業として開設することとし、平成11年度中に全学の教養教育協議会に公開授業開設の承認と協力を依頼した。その結果、同協議会委員の各学部教務委員長の先生のご協力を得て、表III-2の通り10科目を公開授業として開設することができた。

初年度ということで準備作業に手間取り、広報が十分に行えなかっこともあり、実際に受講者があったのは半分の5科目であったが、受講者へのアンケート結果は好評で、継続実施を望む声が多く見られた。また、講師の側からも、15回で完結する授業科目の中に6回以内で1つのユニットを作れという要望は無理がある、履修学生数が多いため公開授業受講者が参加するインパクトが弱いなどの指摘はあったものの、基本的には公開授業を肯定的に捉え評価してもらうことができた。

今後はさらに質的にも量的にも公開授業を充実させ、学部専門科目や将来的には大学院の科目についても公開授業として開放できないか検討を進めていく。

(3) 生涯学習教育研究センター主催による公開講座

平成11年度は、生涯学習教育研究センター主催による公開講座を3講座開設した。

このうち、出前講座2講座（大分大学米水津塾、大分大学おおの夢魅塾）はこれまで教育学部が実施していたが、今年度から生涯学習教育研究センター主催という形に移管したものである。今年度は、公開講座専門委員会委員に講師選定などの業務を担当していただく形で実施した。今後は、生涯学習教育研究センターの特性を生かし、学習プログラムの体系性や学際性、発展性などの向上に取り組む必要がある。大分大学米水津塾、大分大学おおの夢魅塾の本年度の開催日時、講師名、テーマ、内容の概略については、以下に示す。

平成12年度大分大学米水津塾 担当者及び講義題目と内容の概略

5月28日（日） 合同開講式 『瀧廉太郎の歌の魅力』

教育福祉科学部 教授 松本 正

瀧廉太郎が作曲した「荒城の月」や「花」は、今まで多くの人々に親しまれ、歌い継がれてきました。これらの歌はなぜ素晴らしいのでしょうか。なぜ名曲なのでしょうか。講演では、彼の歌が持っている魅力の秘密にせまります。

6月19日（月） 『海と森林との共生』

森林インストラクター 神川 建彦

上流中流下流そして海へと続く水系を中心とした流域生態系全体の中での、海と森林の位置と役割を考える。さらに農林漁業と農山漁村、対外的には農山漁村と都市、地方と中央の関係を考え、村が一つの完結した社会生態系として、自立し持続できるか。田舎に生きる知恵、自然に即した生活スタイルとはどんなものか。山村に住む一林家の立場から、自らの試行錯誤の事例も交えて報告する。

7月19日（水）『“元気力”回復のためのからだの動かし方』

教育福祉科学部 助教授 麻生 和江

健康、体力を維持するための体操の紹介と日常動作のちょっとした気づかいによる身体の保護。

9月14日（木）『高齢者の暮らしを支える条件を考える』 経済学部 教授 細川 順正

過疎化が進み、高齢化した地域社会で、さまざまな高齢者の暮らしと元気を支えているものは何かを私はさぐってみたいと思っています。それがわかれば、もっと暮らしやすく、もっと元気の出る社会対策やシステムづくりを制度としても、地域住民の共同によっても、しやすくなるのではないかと考えるからです。

それを一緒に考えていく手がかりとなる話しが、できればよいと思っています。

10月6日（金）『木造住宅から地球環境が見える』 工学部 教授 井上 正文

地球温暖化をはじめ、地球環境の悪化は日に日に進んでおり、その早急な対応は待ったなしの状態である。エコマテリアル（地球にやさしい材料）としての木材を大量に使用する木造住宅の普及が、大気中二酸化炭素の削減や、林業引いては漁業振興にもつながることを丁寧に解説する。

11月16日（木）『子育て・孫育て再考』 教育福祉科学部 教授 後藤 靖宏

独り立ちできるまでに成長してくると、すがりつくわが子を血みどろの格闘で突き放し、凍てつく大荒野へ追い立てていくというキタキツネ親子の「子別れの儀式」は、痛く我々の胸を打ちます。幾度か迎える自立へのチャンスさえ、ぬるま湯で濁してしまう人間社会への警鐘とみるべき自然界の教訓でありましょう。世は教育混迷の時代、わが子の自立を助ける子育てにあって、親が果たさなければならぬ役割について考えてみましょう。

1月19日（金）『W.シェイクスピア：「ロメオとジュリエット」の鑑賞』

教育福祉科学部 教授 松下 秀峰

青春の愛を賛歌した永遠の名作『ロメオとジュリエット』を、「バルコニー・シーン」を探り上げ、O.ハッセイとL.ホワイティング主演の映画を中心に、他の映画の同場面と比較しながら鑑賞したいと思います。

3月11日（日）合同閉講式『中国茶の歴史と楽しみ方』 経済学部 教授 森川 登美江

中国茶の歴史的変遷や、日本茶との相違などに触れた後、各種の中国茶を紹介する。

その後、簡単で絶対おいしいお茶請を作り、工夫（グンマー）茶その他のいれ方でお茶をいれ、みんなで味わう。

学術的というより、日常、中国茶を楽しむための実践講座にしたい。

平成12年度大分大学おおの夢魅塾
担当者及び講義題目と内容の概略

5月28日（日） 合同開講式 『瀧廉太郎の歌の魅力』 教授 松本 正

瀧廉太郎が作曲した「荒城の月」や「花」は、今まで多くの人々に親しまれ、歌い継がれてきました。これらの歌はなぜ素晴らしいのでしょうか。なぜ名曲なのでしょうか。講演では、彼の歌が持っている魅力の秘密にせまります。

6月21日（水） 『子育て・孫育て再考』 教育福祉科学部 教授 後藤 靖宏

独り立ちできるまでに成長してくると、すがりつくわが子を血みどろの格闘で突き放し、凍てつく大荒野へ追い立てていくというキタキツネ親子の「子別れの儀式」は、痛く我々の胸を打ちます。幾度か迎える自立へのチャンスさえ、ぬるま湯で濁してしまう人間社会への警鐘とみるべき自然界の教訓でありましょう。世は教育混迷の時代、わが子の自立を助ける子育てにあって、親が果たさなければならぬ役割について考えてみましょう。

7月19日（水） 『くらしの心理学～ことわざ、文学等にみる人間心理のいろいろ～』

生涯学習教育研究センター 教授 阿久根 求

温故知新ということばがあります。昔からのことわざや文学の中には、今日の人間心理、人間関係や子育て等についての知恵が隠されています。

30余りのことわざ等について皆さんと一緒に読み取り、日常の生活に役立てていきたいと思います。

9月20日（水） 『日本の諸行事と植物』 教育福祉科学部 教授 武井 雅宏

日本での正月、七草粥、節分、端午の節句、七夕、慶弔等の行事では、多様な植物が用いられる。それらは、庶民の願いを植物特性に象徴させたり、成分等を有効利用するために用いられている。そこで、それらの植物が用いられるに至った理由について考えてみたい。

10月18日（水） 『心拍トレーニングとその方法』 工学部 教授 前田 寛

身体運動を行い心肺機能を高めることは、生活習慣病の予防に効果があると言われている。そこで、心肺機能を高めるためのトレーニング方法やその基本について概説する。

11月15日（水） 『木材加工における刃物の研磨法について』

教育福祉科学部 教授 田中 通義

木材加工では、かんな、ノミなどの刃物が用いられる。刃物がよく切れるか切れないかが製作品の出来具合に大きく影響を与えている。

今回は、かんなの刃やノミの刃などの研ぎ方について説明します。また、家庭で使っている包丁の研ぎ方についても指導します。

1月17日（水）『ジジババに花を～福祉よもやま話～』

教育福祉科学部 助 手 工藤 修一

高齢者が幸せに暮らせなければその町は豊かとはいえません。大野町の実状を素材にして、町に福祉の花を咲かせる方法について、受講生のみなさんとともに「熱く」語りたいと思います。

3月11日（日）合同閉講式『中国茶の歴史と楽しみ方』 経済学部 教 授 森川 登美江

中国茶の歴史的変遷や、日本茶との相違などに触れた後、各種の中国茶を紹介する。

その後、簡単で絶対おいしいお茶請を作り、工夫（グンマー）茶その他のいれ方でお茶をいれ、みんなで味わう。

学術的というより、日常、中国茶を楽しむための実践講座にしたい。

出前講座以外のセンター主催公開講座としては、「家庭教育ワークショップ」を開催した。この講座は、平成10年度から引き続き開設している家庭教育に冠する王座であり、本年度は、受講者がより能動的に参加し一緒に講座を作るという観点からワークショップ形式で開催した。

以下、講座の趣旨、開催日時、講義内容の概略について述べる。

趣旨：子どもを取り巻く社会環境の変化、くらしの場である家庭環境の変化等により、子どもの様々な身体的・心理的・行動的問題が生じてきています。

本講座では、具体的問題を取り上げながら、子どもの健全発達のための親や大人社会のあり方等を受講者とともに考えていきます。

開催日時：平成12年10月14日～11月18日

（11月4日を除く毎週土曜日 14:30～16:30 計5日間）

講義内容の概略：

第1回（10月14日）「家庭教育における親の役割」

生涯学習教育研究センター長・教育福祉科学部教授 山崎 清男

I 家庭教育の力

II 子どもを見る2つの目

III どんな家庭が望ましいか

第2回（10月21日）「青少年の問題行動とそれへの対処」

大分市青少年センター所長 宇都宮 英雄

1. どんな子どもが育っているか
2. 家庭・学校・地域の問題点
3. 非行防止活動
4. 非行しない子どもの特徴
5. 生きる希望と活力を作り出す家庭の条件
6. どんな子が壊れやすいか
7. 親が叱らなければならないとき
8. こんな大人に、なりたい、なりたくない（小学生・中学生・高校生の意見集約）

第3回（10月28日）「親と子の心の絆の形成過程

－陽性のふれあい、陰性のふれあいと心のふれあい－

生涯学習教育研究センター教授 阿久根 求

はじめに 一心の絆とは－

1. 愛着の源は何か
2. 心理学における親研究の主な系譜とボウリビィの愛着理論
3. 人間交流の基盤としてのふれあい
4. 子どもの健全発達を目指す親の関わり方

おわりに 一後ろ姿、真向き、横並びの実践を！－

第4回（11月11日）「子どもの心の発達を医学的に見る」

市ヶ谷整形外科院長・大分市医師会理事 市ヶ谷 学

心とは？

脳における感情の場

脳における知性の場

意志

世代のギャップ

学童期の問題行動（過換気症候群、摂食障害、ADHD）

第5回（11月18日）「子育てと親の学び・成長」

生涯学習教育研究センター助教授 岡田 正彦

1. 親としての視点と親への視点
 2. 生涯学習としての子育て
 3. 補足資料（議論の材料として）
- ワークシート（視点の異化、子育ての自己診断）

2 諸謝金使用事業

本年度、センターでは、配分された諸謝金を以下のように使用した。まず、「生涯学習研究開発・地域連携事業」として、大分大学における生涯学習に関する研究開発あるいは地域との連携に資する事業について募集を行い、応募のあった事業について運営委員会での承認を経て実施していただいた。センター企画の事業としては、「大分大学生涯学習出張講座イン玖珠」、「大分大学教職員対象講座」、「大分大学福祉実務者実践セミナー」、「大分大学社会教育アドバンスト・セミナー」、「生涯学習推進のための大学と行政の連携研究会」、「家庭教育プログラム研究会」、「学校教育と生涯学習の連携研究会」の7事業を実施した。これらは、センターにおける研究開発体制の充実、地域との連携による学習機会の充実、地域との連携体制の構築などを目的として実施した事業である。

初めての試みも多かったため、回数や内容に課題がないわけではないが、今後さらにこれらの事業を充実させることで、センターの研究開発機能および学習機会提供機能の一層の高度化を図りたい。

それぞれの事業についての詳細は、以下の通りである。

① 大分大学生涯学習出張講座イン玖珠

昨年度より実施。大分県内の地域に出かけ、学習機会提供と大学開放に関する広報を一体的に実施している。本年度は、玖珠地区で2月17日に以下のように実施。

1. 日 時 平成13年2月17日（土） 10:00～16:00

2. 場 所 玖珠総合庁舎（玖珠郡玖珠町塚脇137-1）

3. 趣 旨 学習ニーズの多様化や高度化など生涯学習をめぐる状況は、大学をはじめとする高等教育機関が地域住民に対する学習機会提供において果たすべき役割を増大させている。大分大学では、このような状況において積極的に地域と連携し、地域住民の学習に貢献することを目指して、様々な事業を実施している。「大分大学生涯学習出張講座イン玖珠」はこのような取り組みの一環として、大分大学教員が地域に出かけていって学習機会を提供するとともに、地域住民が大分大学に対してどのような教育サービスの提供を求めているかを検討する資料を収集し、今後積極的に大分大学を地域に開放していく契機となるように実施する事業である。

4. プログラム

| | |
|-------------|--|
| 10:00 | 開会 |
| 10:01～10:05 | 主催者挨拶（大分大学生涯学習教育研究センター長 山崎 清男） |
| 10:06～10:10 | 共催者挨拶（玖珠町教育委員会教育長 穴井 趟） |
| 10:11～11:40 | 童話の里大学講演「少子化時代における教育の課題」 講師：阿久根 求（大分大学生涯学習教育研究センター教授） |
| 11:41～11:55 | 質疑応答 |
| | 休憩 |
| 13:30～14:00 | 開会行事 |

14:00～14:40 子どもからの提言
14:40～16:00 パネルディスカッション
コーディネーター：山崎清男（大分大学生涯学習教育研究センター長）
16:00 閉会
16:10～16:40 個別相談

② 大分大学教職員対象講座

大分大学教職員の大学開放に関する力量の向上、生活アメニティの向上を目的とし、教職員対象の講座を実施。今年度は、情報技術向上講座を実施したが、予想より多くの教職員の参加を得、エクセルやパワーポイントの使い方、授業改善に向けたワークショップの開催などについて受講ニーズが示された。来年度はこれを受けて、大学開放や一般の教育・業務に役立つFD講座を充実させる予定である。

- ・「情報技術向上講座（Eメール、インターネットの活用）」

講 師 山下 茂（教育福祉科学部教授）藤井 弘也（教育福祉科学部助教授）
時 期 2月21日～3月7日（2時間×3回）

③ 大分大学福祉実務者実践セミナー

大分県内の福祉実務者を対象に、実践の改善を目的とした少人数のセミナーを実施。

本年度の事業「大分ソーシャルワーク研究会」

申請者 丸山 裕子（教育福祉科学部助教授）

講 師 佐藤 博文氏

（医療法人鶴友会 大分市在宅介護支援センターこがシニア事業部長）

時 期 1月15日～3月15日（計5日間）

④ 大分大学社会教育アドバンスト・セミナー

社会教育関係職員を主たる対象とし、職能の向上に資する研究協議を行う。

第1回「地域から見た社会教育の可視性・不可視性」

講 師 市ヶ谷 学氏（市ヶ谷整形外科院長 大分市医師会理事）

参加者 社会教育関係職員、大分大学教職員、社会教育に関心のある大分大学学生

日 時 平成12年12月2日（土） 14:00～16:00

⑤ 生涯学習推進のための大学と行政の連携研究会

大分地域の生涯学習推進のため、大学と行政がいかに連携を図るかについて研究協議を実施する。

講 師 岩本 嬉家氏（大分県教育庁生涯学習課参事）

日 時 5月18日（木） 17:30～19:30

⑥ 家庭教育プログラム研究会

家庭教育プログラムの開発のために、学習者代表や社会教育関係職員と研究協議を実施。

第1回「小学校の現場からの家庭教育プログラム開発の視点」

日 時 平成12年12月4日（月） 16:00～20:00

講 師 河崎 育子氏（大分市立日岡小学校教諭）

中小路 紀子氏（大分市立日岡小学校教諭）

第2回「乳幼児教育の現場からの家庭教育プログラム開発の視点」

日 時 平成12年12月11日（月） 16:00～20:00

講 師 友永 美保子氏（東大分幼稚園主任）

山ノ内 久子氏（元別府大学付属幼稚園教諭）

第3回「中学校の現場からの家庭教育プログラム開発の視点」

日 時 平成12年12月26日（火） 15:00～17:00

講 師 筒井 啓太氏（滝尾中学校教諭）

⑦ 学校教育と生涯学習の連携研究会

学校教育の視点からの生涯学習支援方策の検討および生涯学習の視点からの学校教育改善方策の検討を目的とした研究協議を行う。

第1回「学校教育をめぐる問題状況と生涯学習の視点」

日 時 平成12年11月27日（月） 17:30～19:30

講 師 御沓 義則氏（大分市教育委員）

第2回「学校教育と生涯学習の連携方策」

日 時 平成12年12月4日（月） 17:30～19:30

講 師 松本 忠氏（大分市立日岡小学校長）

⑧ 生涯学習研究開発・地域連携事業

生涯学習に関する研究開発および地域との連携を促進するため、申請のあった事業およびセンター企画事業に対し、講師謝金等を交付する。

・知的障害者と大学生の共同ダンス学習活動

日 時 平成12年8月18日～平成13年1月28日

講 師 麻生 和江（教育福祉科学部助教授）

・現代労働社会問題研究会

第1回「『自由主義史観』と西洋史研究の動向」

日 時 平成12年11月15日

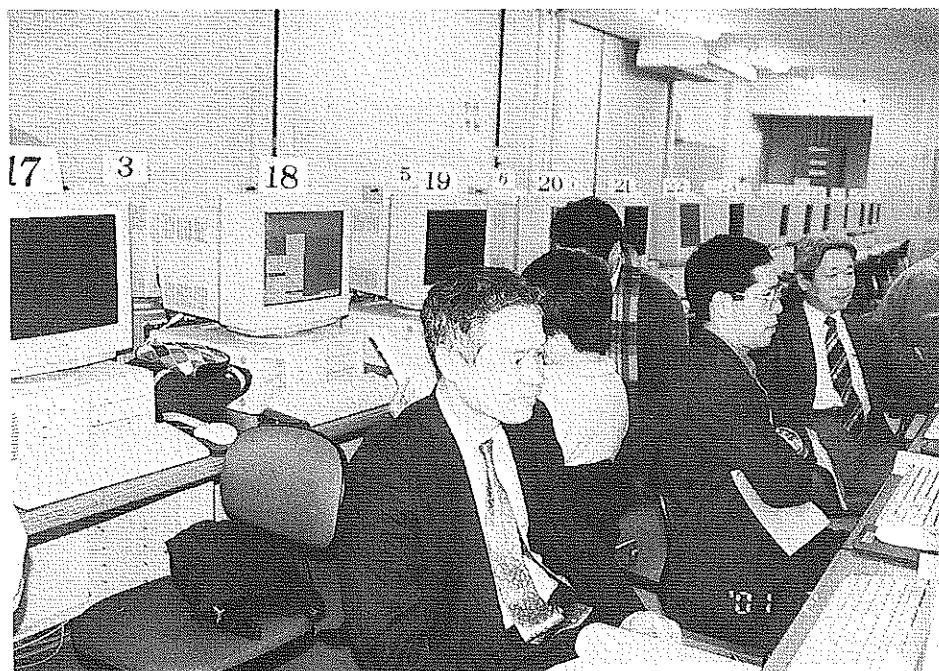
講 師 市原 宏一（経済学部助教授）

第2回「高齢化社会に関する危機論と克服論」

日 時 平成13年3月22日

講 師 合田 公計（経済学部教授）

大学に係るFD講座 情報技術向上講座
(Eメール、インターネットの活用)



生涯学習研究開発・地域連携事業
「知的障害者と大学生の共同ダンス学習活動」



3 衛星通信を活用した研修プログラム

本年度は、合計4講座を受信し、学習プログラムとして提供した。受講者には概して好評であったが、受講者が昨年度以前の受講者と大分大学の学生に偏る傾向がみられ、より広範な層に広報することによって受講者数を増加させることができることが課題となっている。

また、大分大学独自の対面型学習プログラムと組み合わせることにより、研修プログラムの教育効果を向上させることも課題である。

今年度からはプログラムや配付資料なども衛星通信による一斉データ送信により送付されることになり、本学では一斉データ送信を受信するためのコンピュータシステムを設置していなかったため、実施主体である国立教育会館学校教育研修所や近隣の大分県教育センターには、資料の手配の面でずいぶんお手数をおかけすることになった。この場を借りてお詫び申し上げる。

本年度に受信した講座の趣旨、日時、会場、プログラムについては、以下の通りである。

(1) 学校カウンセリング講座

① 趣 旨

生徒指導上の諸問題に的確に対応できる教員を養成するために、各都道府県等に学校カウンセリングを内容とする衛星通信研修プログラムを配信し、各都道府県等が行う教職員研修を支援する。

② 日 時

平成12年7月31日（月） 13:30～16:00

8月1日（火） 13:30～16:00

2日（水） 9:30～12:00

③ 主 催

国立教育会館学校教育研修所

④ プロ グラム

7月31日 「青少年問題の理解と対応」【講義】

8月1日 「学校カウンセリングの考え方・進め方」【講義】

2日 「学級で使えるグループエンカウンターの理論と実際」【講義・演習】

⑤ 大分大学の状況

受信場所：教養教育棟S C S室

受講者数：35名

(2) 情報教育基礎研修講座Ⅰ

① 趣 旨

情報化の進展に対応した情報教育の充実が重要な教育課題となっている中で、都道府県が行う「情報教育研修」等の利用に供することにより、教員の情報活用能力の向上に資する。

② 日 時

平成12年8月17日（木） 13:10～14:50
18日（金） 10:30～12:10

③ 主 催

国立教育会館学校教育研修所

④ プロ グラム

8月17日 「初等教育における情報教育」【講義】
18日 「情報教育の内容理解」【講義】

⑤ 大分大学の状況

受信場所：教養教育棟S C S室

参加人数：9名

(3) 情報教育基礎研修講座II

① 趣 旨

情報化の進展に対応した情報教育の充実が重要な教育課題となっている中で、都道府県が行う「情報教育研修」等の利用に供することにより、教員の情報活用能力の向上に資する。

② 日 時

平成12年9月18日（月） 13:10～14:50
19日（火） 10:30～12:10

③ 主 催

国立教育会館学校教育研修所

④ プロ グラム

9月18日 「情報化の方向性・情報化社会と教育」【講義】
19日 「学習指導における活用－コンピュータ、インターネットの活用－」【講義】

⑤ 大分大学の状況

受信場所：教養教育棟S C S室

参加人数：9名

4 大学開放イベント

平成12年度の大分大学開放イベントは、平成12年5月28日（日）10時から16時の間、大分大学且野原キャンパスを会場として開催された。本年度のメインテーマは、昨年度と同様、「これからの大分、これからの大学」で、サブテーマとして「地域から大学へ、大学から地域へ」であった。この統一テーマの下、各部局、センターから様々なイベントが企画された。生涯学習教育研究センターは、2つの主催企画と2つの共催企画によるイベントを開催した。各企画についての概要を示すと以下のとおりである。

(1) 公開講座「大分大学米水津塾」「大分大学おおの夢魅塾」合同開講式と記念講演

- ① 日 時 平成12年5月28日（日） 10:00～12:00
 - ② 会 場 教育福祉科学部 100号教室
 - ③ 内 容
 - 開講式（10:00～10:30）
 - ・開式の辞
 - ・入塾許可証授与
 - ・塾生宣誓
 - ・主催者挨拶
 - ・共催者挨拶
 - ・来賓祝辞
 - ・祝電披露
 - ・平成12年度講師紹介
 - ・閉式の辞
 - 記念講演会（第1回講座）（10:30～12:00）
 - ・講師 大分大学教育福祉科学部 松本 正 教授
 - ・演題 瀧 麻太郎の歌の魅力
- この講演会は、公開講座の受講生だけでなく、イベントへの来場者にも開放して実施された。

(2) 生涯学習交流サロン

- ① 日 時 平成12年5月28日（日） 13:30～15:30
- ② 会 場 教養教育棟インフォメーションルーム
- ③ 内 容
 - 学習情報を手に入れたり、同じような関心を持っている人と交流するオープンスペース（13:30～14:00）
 - 子育てについてのワークショップ（14:00～15:30）
 - ・〈ワークシート1〉子育てライセンス
 - ・〈ワークシート2〉親のP、M指導行動自己評定
 - ・〈ワークシート3〉リスニング習慣の自己チェック
 - ・〈ワークシート4〉子どもの成長とほめ方、叱り方

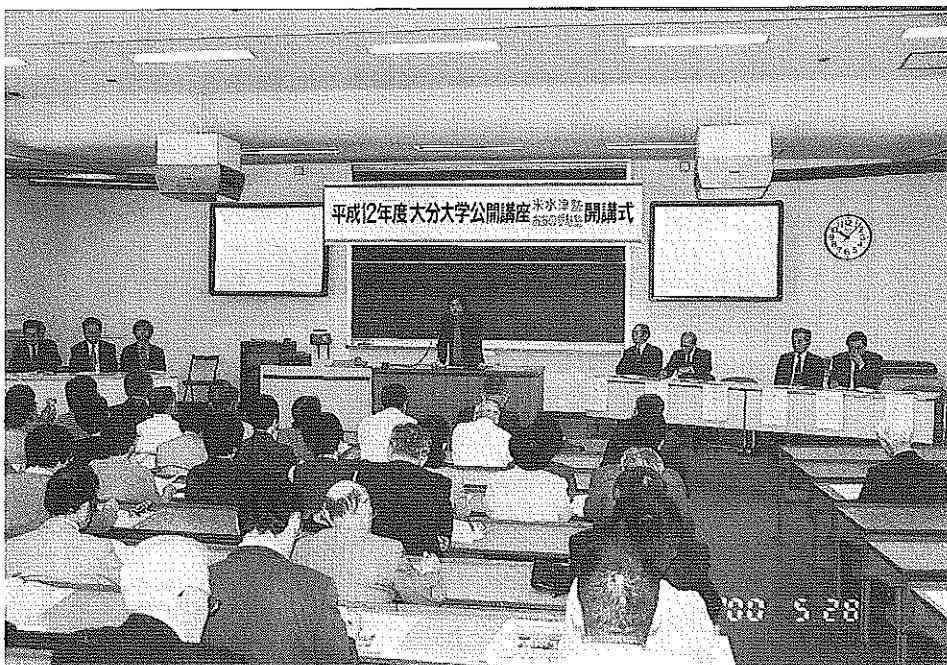
(3) 子ども教育相談（教育福祉科学部の心理学教室との共催）

- ① 日 時 平成12年5月28日（日） 10:00～16:00
- ② 会 場 教育福祉科学部実験研究棟3F、4F視聴覚室
- ③ 内 容 幼児期から青年期までの子育て相談を実施した。

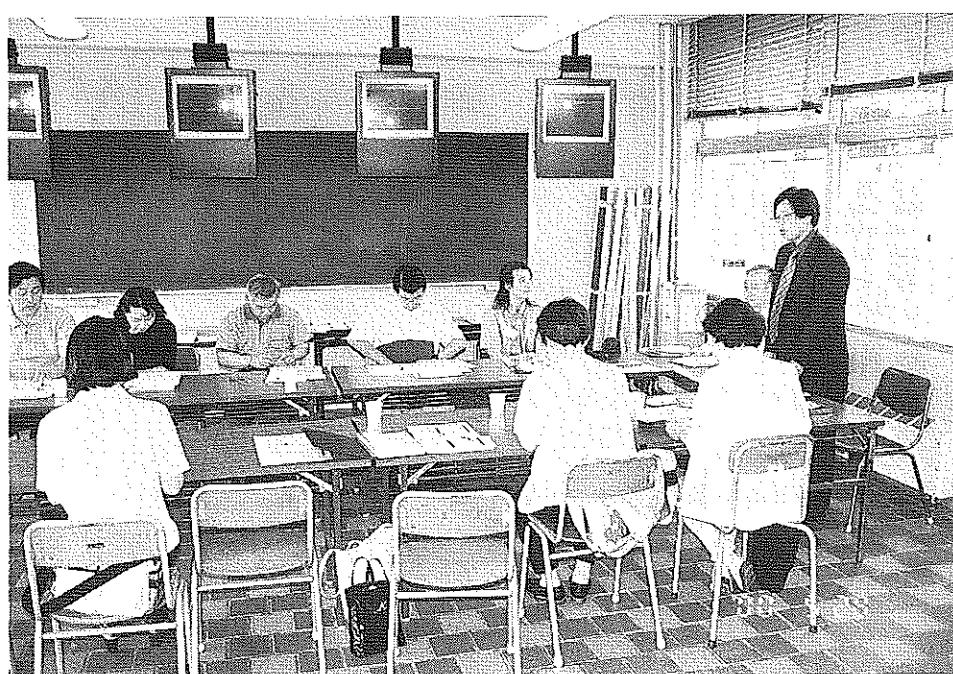
(4) 心理テストで自己理解を深める（教育福祉科学部の心理学教室との共催）

- ① 日 時 平成12年5月28日（日） 13:00～16:00
- ② 会 場 教育福祉科学部実験研究棟4F 視聴覚室
- ③ 内 容 標準的な心理検査を用いて、自分の性格や適性を調べてみる心理テストを実施した。

公開講座「大分大学米水津塾・大分大学おおの夢魅塾」合同開講式



大学開放イベント「生涯学習交流サロン」



5. 生涯学習講演会「大学開放推進の組織づくり・人づくり」

本センターでは、平成10年度より学内の教職員を対象にした生涯学習講演会を実施してきた。平成10年度は、長崎大学生涯学習教育研究センター長の猪山勝利氏による「大学開放の推進と教職員の在り方」、平成11年度は、宮崎大学生涯学習教育研究センターの上条秀元氏による「大学開放における地域との連携」というテーマでの講演であった。本年度は、徳島大学大学開放実践センターで大学開放に深く関わられ、またアメリカ合衆国をはじめとした海外の先進事例についても長年研究されておられる廣渡修一氏から講演していただいた。講演のテーマは、「大学開放推進の組織づくり、人づくり」である。講演を受けて、参会者から多くの質問がだされ活発な質疑応答が行われた。

講演会の概要については、以下に記す。

- (1) 日 時 平成13年2月27日 13:30~15:30
- (2) 場 所 教養教育棟 SCS室
- (3) 講 師 徳島大学大学開放実践センター教授 廣渡 修一先生
- (4) テーマ 「大学開放推進の組織づくり、人づくり」
- (5) 内 容

① 大学開放の現状……各種のデータから

- 教育データランド
- 学長調査
- 大学ランキング

② 大学開放の組織づくりと人づくり

(a) 組織づくりに関する現状と課題

- 総合センター化
- 独立採算化
- コンソーシアム化
- 競争化

(b) 人づくりに関する現状と課題

- 交流制度
- 研修制度
- 資格制度

③ 今後の方向（まとめ）

- 日本国型システムの追求
- 全国的大学間連合機構による機能開発

6 第4回大分大学福祉フォーラム

大分大学福祉科学研究センターと本センターが主催する形で、第4回大分大学福祉フォーラムを実施した。大分大学では、福祉科学研究センターの設置や教育福祉科学部の設置、経済学部地域システム学科・工学部福祉環境工学科の設置など全学的に福祉に関する研究および学習機会提供に取り組んでいる。本フォーラムはその一環として、地域住民を対象に開催するものである。

本年度の福祉フォーラムは、以下のように実施された。

趣 旨：

少子高齢化の進む社会情勢の中で、大分でも過疎化、高齢化、少子化が深刻な問題となっており、早急な取り組みが求められています。なかでも、県民一人一人が子どもを安心して産み育てることができ、仕事と育児を両立させながら、子育てと家庭に夢と希望が持てるような社会環境の整備と子育ての社会的支援が重要であり、地域で子ども達を健やかに育ててゆくことが焦眉の課題となっています。そこで、大分大学福祉フォーラムでは、「地域の子育て」に焦点をあて、県内各地で子育て支援や子どもたちの健やかな育ちを守る取り組みを続ける方々に日頃の実践を紹介していただきながら、地域で子どもを育てていくことの意義と重要性について考えてみたいと思います。

日 時：平成13年2月3日（土） 13:30～17:15

場 所：大分市コンパルホール 多目的ホール

テーマ：「地域で育む大分っ子—少子高齢社会の子育て支援—」

プログラム：

基調講演「少子高齢社会の子育て支援」（大分大学教育福祉科学部助教授 森 望）

県の施策の概要（大分県福祉保健部子育て支援課参事 小野 陽一郎）

シンポジウム

コーディネーター：鈴木 義弘（大分大学工学部講師）

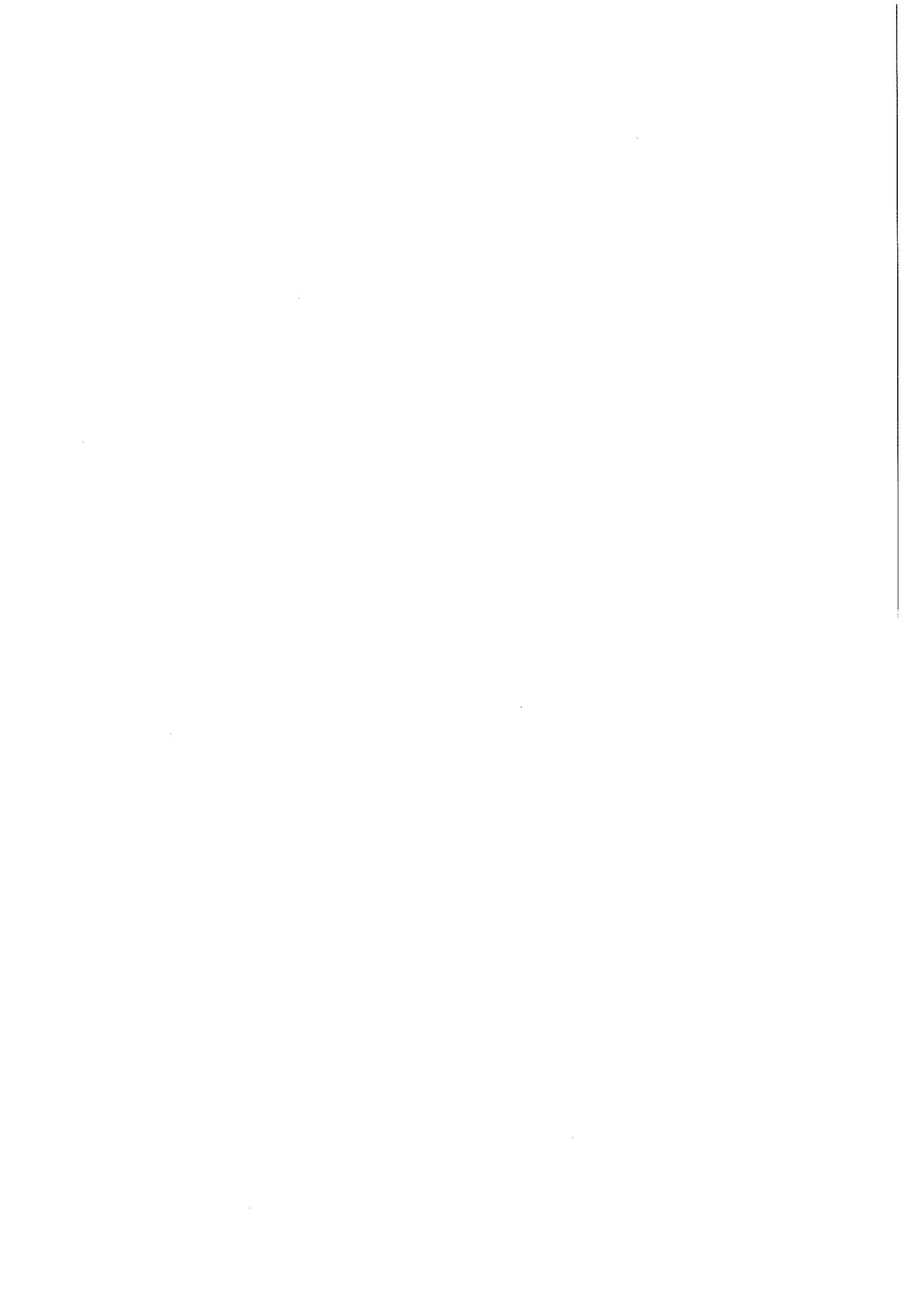
シンポジスト：澤田 和子（大分子育てネットワーク会長）

佐藤 はるみ（みやた児童館 館長）

中村 廣光（大分県中央児童相談所専門心理判定員）

吉田 寛（コピーライター）

IV 研修報告



1 第22回全国国立大学生涯学習系センター協議会

平成12年度第22回全国国立大学生涯学習系センター協議会が、平成12年10月5日・6日の両日、北海道大学高等教育機能開発総合センターを会場に開催された。協議会の概要は以下の通りである。第1日目の協議題(3)では、本学が事務局となって実施した平成11年度文部省委嘱研究「大学における生涯学習推進」研究プロジェクトの1年次の研究成果を報告した。

日 時：平成12年10月5日（木）・6日（金）

会 場：第1日 北海道大学百年記念会館B1F大会議室

第2日 北海道大学情報教育館3Fスタジオ型多目的中講義室

プロ グラム：

第1日

議事（協議題）

- (1) 大学教育システム及びカリキュラムの「生涯学習化」に向けた生涯学習センターの役割について（提案校：香川大学）
- (2) 住民のニーズに対応した公開講座の多様化について（提案校：滋賀大学）
- (3) 「大学における生涯学習推進」研究プロジェクト中間報告について（提案校：大分大学）
- (4) 次回以降の当番大学について
- (5) その他

第2日

パネルディスカッション

発表

- (1) 平成11年度文部省委嘱研究「生涯学習活動の促進に関する研究開発」について
上智大学文学部教授 香川 正弘氏
- (2) 「オホーツク圏大学間ネットワークの取り組み」について
北見工業大学工学部教授 小林 正義氏
- (3) 「札幌市民カレッジの取り組み」について
札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課 大瀬 秀樹氏

質疑・討論

2 第12回大学開放の在り方に関する研究会

標記の研究会が下記の要領で開催された。

- (1) 趣 旨 生涯学習社会の構築に向けて、大学開放の果たす役割の重要性に鑑み、今後の大学開放の在り方について研究討議を行う。
- (2) 日 時 平成12年11月1日（水） 10時30分～17時
- (3) 会 場 津市センターパレスホール
- (4) テーマ 求められる知のかたち 一地域のニーズを探る一
- (5) プロ グラム

| | | |
|-------------------------------|---|--|
| 10:30 | 開 会 | |
| 10:30～10:40 | 文部省挨拶 文部省生涯学習局生涯学習振興課長 当番大学挨拶 三重大学長 | 樋口 修資 矢谷 隆一 |
| 第1部 基調講演 | | |
| 10:40～12:00 | 金沢大学大学教育開放センター教授 「今、大学に求められるもの 一地域に活かす これからの大学ー」 | 内田 忠平 |
| 昼休憩 12:00～13:00 | | |
| 第2部 研究報告（生涯学習社会が求める知の課題） | | |
| 13:00～13:30 | 三重大学教育学部教授 「開かれた大学づくりと知の創発」 | 伊藤 彰男 |
| 13:30～14:00 | 四日市大学経済学部教授 「学習からの逃走をどうとらえ、向き合うのか？」 | 石井 房枝 |
| 14:00～14:30 | (財) 愛知県健康づくり振興事業団理事長 「夢の長寿社会 ー新しい時代に対応できる大学を」 | 井形 昭弘 |
| 14:30～15:00 | 三重県科学技術振興センター保健環境研究所顧問 「産業界が求めるパートナーシップ」 | 円城寺英夫 |
| 15:00～15:30 | 三重大学人文学部教授 「生涯学習社会に果たす歴史的文化遺産の役割」 | 山中 章 |
| 第3部 パネルディスカッション（大学をどのように変えるか） | | |
| 15:45～17:00 | パネリスト 三重大学教育学部教授 四日市大学経済学部教授 (財) 愛知県健康づくり振興事業団理事長 三重県科学技術振興センター保健環境研究所顧問 三重大学工学部非常勤講師 三重大学人文学部教授 三重大学生物資源学部教授 コーディネーター 三重大学副学長 | 伊藤 彰男 石井 房枝 井形 昭弘 円城寺英夫 山中 章 大原興太郎 上野 達彦 |
| 17:00 | 閉 会 | |

第1部 基調講演

演題 今、大学に求められるもの 一地域に活かす これからの大学一

講師 金沢大学大学教育開放センター教授 内田 忠平

内容 はじめに

(1) 人生80年の時代

(2) 時代のめまぐるしい変化

1. 生涯学習を必要とした背景

2. 豊かさの中での教育

3. 21世紀の世界は「変化」と「激動期」を迎える

4. 地域の羅針盤として大学は

5. これからの大学への期待

6. 生き残るには

7. 大学教育開放センターでは

おわりに

3 第6回生涯学習実務者協議会 －多様な生涯学習講座の実践－

平成12年度第6回生涯学習実務者協議会が下記の要領で実施された。以下、その内容を記す。

- (1) 趣旨 社会に開かれた高等教育機関を目指し、地域社会における学習機会の一層の拡大・充実と地域社会との連携協力について協議する。
- (2) 日時 平成12年11月2日（木） 9時30分～12時
- (3) 会場 津市センターパレスホール
- (4) テーマ 多様な生涯学習講座の実践
- (5) プログラム

| | | |
|----------------|---|---------------|
| 9:30 | 開会 | |
| 9:30～9:40 | 挨拶 文部省生涯学習局生涯学習振興課専門員 | 山本 昌博 |
| 第1部 話題提供 | | |
| 9:40～10:10 | 兵庫県県民生活部生活文化局生活創造課 生涯学習振興課長 「大学キャンパスを活用した社会人向け専門講座： ひょうごオープンカレッジからの報告」 | 宮野 敏明 |
| 10:10～10:40 | 沖縄国際大学商経学部（公開講座委員会委員長） 「公開講座と公報－ポスター等による公開講座：沖縄国際大学からの報告」 | 金城 規克 |
| 10:40～11:10 | （財）三重県文化振興事業団（三重県生涯学習センター）主査 「大学との連携による生涯学習機会提供 ：「三重7大学公開セミナー2000」からの報告」 | 川戸 義彦 |
| 休憩 11:10～11:20 | | |
| 第2部 質疑応答 | | |
| 11:20～12:00 | 司会進行 | 三重大学副学長 上野 達彦 |
| 12:00 | 閉会 | |

4 平成12年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会

標記研究協議会が下記要領にて開催された。実施要綱、プログラムについては以下の通りである。本学からはセンター専任教官岡田が参加した。分科会では、「高等教育機関との連携」部会に参加し研究協議を行った。3日間の比較的長い研究協議会であったが、参加者がそれぞれ熱心に最後まで協議を行っていたのが印象的であった。

(1) 実施要綱

- 1) 趣 旨 高等教育機関を含むあらゆる機関や団体が連携を図り、総合的な学習機会を提供していくためのモデルを構築する
- 2) 主 催 国立教育会館社会教育研修所
- 3) 期 間 平成12年7月24日（月）～26日（水）
- 4) 参加者 国公私立大学教職員 54名
行政関係者 46名
団体関係者 6名

(2) プログラム

第一日

特別講義「大学を開くために」女子美術大学教授 永井 順國

講義「高等教育と社会教育の連携」淑徳短期大学教授 浅井 経子

事例研究「遠隔学習による連携推進」

第二日

講義「連携・ネットワークの意義と可能性」筑波大学教授 山本 恒夫

講義「生涯学習関連機関ネットワーク化の支援方策」千葉商科大学助教授 田中 美子

事例研究「連携・ネットワークの実際」

第三日

分科会研究協議

- ①高等教育機関との連携、②企業・民間との連携、③N P Oとの連携、④広域市町村連携、
⑤自治体内部での連携

全体会

(3) 研究協議の内容から

- 1) 特別講義「大学を開くために」女子美術大学教授 永井 順國

- ・大学開放は30年前から提唱されていたが、スローガンに留まり、本格的な着手はここ数年のことである。
- ・大学開放を進める枠組み・組織が無く、担当者の熱意と犠牲で成り立っているのが現状である

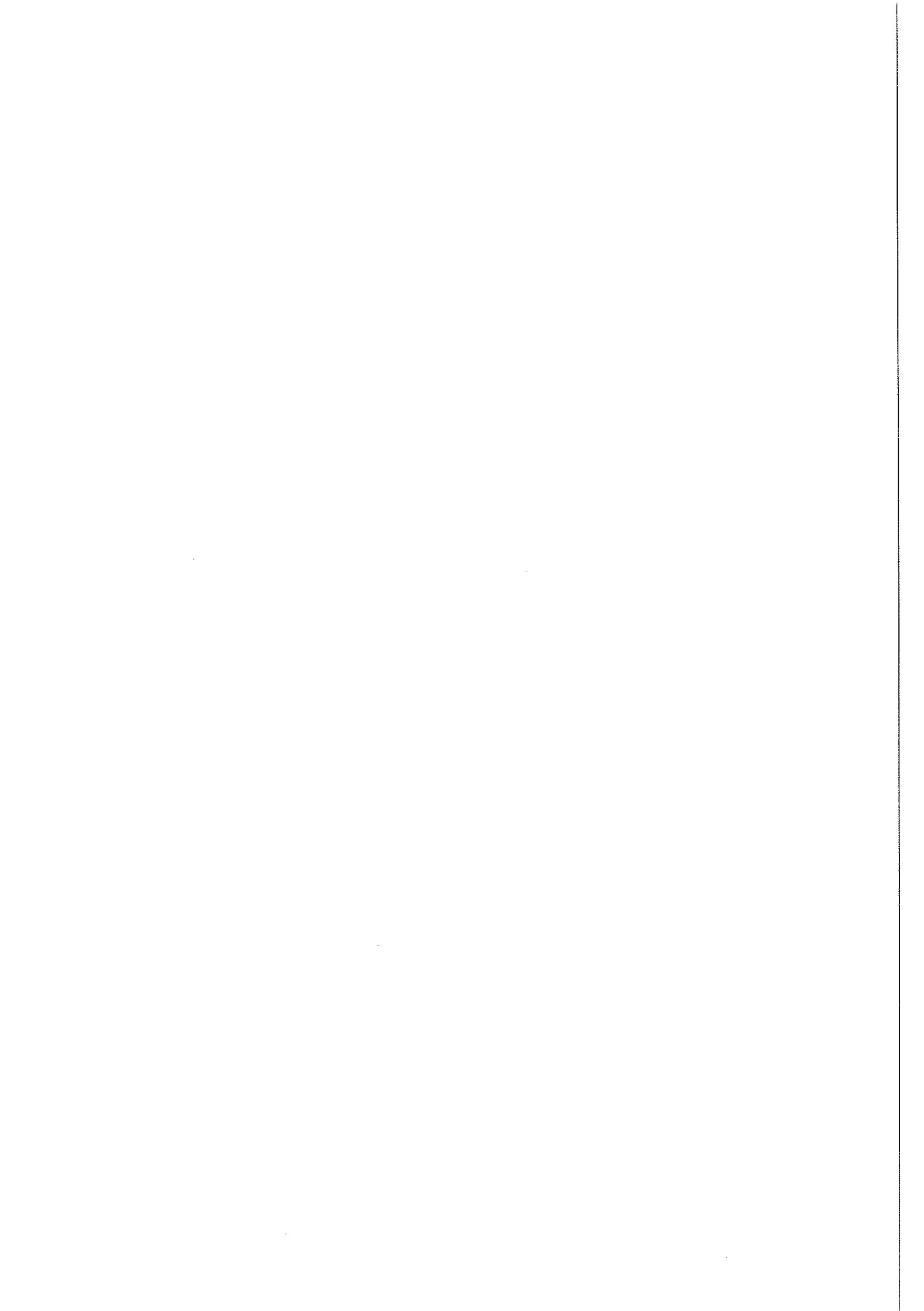
- ・大学が地域（行政、N P O、企業）と関係を作り上げるためには、対等の関係を作ることが大切

2) 分科会研究協議

「高等教育機関との連携」

- ・高大連携……単発の出前講義から大規模な派遣講義へ、授業開放・遠隔授業の展開
- ・大学間連携・ネットワーク化（個別対応型、同一県内型、広域型、行政主導型）
- ・連携・ネットワークの発展と視点（アメリカの事例、教育機能の充実、キーパーソン養成、財政支援）

V センター機能高度化への 取り組み



1 家庭教育プログラムの研究開発

子どもにとって、親は人生の最初の教師といえる。両親を中心とし、その深い愛情の下で、自律心や愛他心、善悪の基準や社会のルールを遵守することの重要性等を教育していくことは、いつの時代においても家庭教育の要諦である。しかしながら、近年、親自身の価値観の変化や子どもや家庭を取り巻く社会環境の変化に伴い、この不易ともいべき家庭教育の在り方が大きく揺らいでいる現実がある。

かかる認識の下、本センターでは平成10年度より、下記に示したテーマ、内容による家庭教育に関する公開講座を開設してきた。

〈平成10年度〉

テーマ：家庭の現状と課題を考える

第1回 気になる家庭、家庭教育事情

第2回 家族発達の段階と課題

第3回 家庭教育における父親、母親と祖父母の今日的役割

第4回 子どもの問題を生む家庭、生まない家庭

第5回 望ましい家庭の創造をめざして

〈平成11年度〉

テーマA：今どきの子どもをどう理解し、どう関わればよいか

－乳幼児期の子どもを中心に－

第1回 人間発達における乳幼児期の重要性について

第2回 子どもの姿、昔と今

第3回 子どもの感性を考える

第4回 人と人との関わりから学ぶもの

第5回 すべての子どもを幸せに

テーマB：今どきの子どもをどう理解し、どう関わればよいか

－少年期・青年期の子どもへの理解と関与－

第1回 教育現場、教育相談の窓口からみた現在の子どもたちを取り巻く状況

第2回 意欲と社会的スキルの発達

第3回 学校週5日制への移行を展望する

第4回 変容する子どもたちの理解と関わりについて

第5回 青少年期と家庭

〈平成12年度〉

テーマ：家庭教育ワークショップ

第1回 家庭教育における親の役割—「親であること」と「親になること」—

第2回 青少年の問題行動とそれへの対処

第3回 親と子のこころの絆の形成過程—陽性のふれあい、陰性のふれあいと心のふれあい—

第4回 子どもの身体の発達とその援助—診察室で考えること—

第5回 子育てと親の学び・成長

このように、3年間に計20回、40時間にわたり子育てや家庭教育の問題や課題についての公開講座を開催してきた。各回の終了時に講義内容についての興味・関心や難易度等についての質問紙調査を実施した。調査結果を分析してみると、当然のことであると言えるかもしれないが、受講者の属性によって講義内容に対する興味・関心や困難度に違いが認められるということである。想定される原因としては、次のようなものが挙げられよう。

- ・すべての講座において、受講者を特定せず一般市民を対象としたこと。
- ・それ故、受講者の中には、専業主婦としての母親の他に、幼稚園教諭、小・中学校の養護教諭、学童保育所の指導者等が含まれており、子育てや家庭教育に対する知識や経験レベルに差がみられること。
- ・講座のテーマや内容は、企画者や各回の講師それぞれが自らの専門的立場から取り上げたもので、いわゆるレディメイドであり、受講者のニーズを必ずしも反映した内容にはなってないということ。

かかる3年間における公開講座の実施を通して、加えて子どもと家庭を取り巻く社会状況を鑑みて、より効果的な家庭教育プログラムの開発が緊急の課題となる。具体的な課題として、次のようなものを取り上げ研究を進めている。

- 子どもの発達段階別にみた保護者の学習ニーズを把握する。
- 実際に子どもを保育、指導している教師からみた家庭教育の課題を明らかにする。
- 家庭教育内容の系統性、体系性について研究する。
- 親教育の在り方について研究する。

2 文部省委嘱「大学における生涯学習推進」研究プロジェクト

昨年度に引き続き、本年度も標記研究プロジェクトの実施に事務局として関わった。

本年度は、1年次の研究成果について第22回全国国立大学生涯学習系センター協議会において報告を行ったほか、実証研究と比較研究という2つの領域において研究を深めた。年度末にまとめた最終報告書の構成は以下の通りである。

はじめに 大分大学 佐藤 新治

I部 21世紀型教育の基本原理としての生涯学習

1. 「大学における生涯学習推進の現代的視角」 長崎大学 猪山 勝利
2. 「市民の生涯学習要求の現段階と高等教育機関の自己革新」 北海道大学 小林 甫
3. 「大学生涯学習の現代的課題と対応」 横浜国立大学 朝倉 祝治

【提言】研究代表 佐藤 新治

II部 大学における生涯学習推進の実証研究

1. 内容論

(1) 現代的教養論

- 1) 「現代的課題としての人間関係・社会関係学習」
大分大学 岡田 正彦
- 2) 「障害をもつ人の生涯学習—知的障害をもつ人の基本的人権としての学習権—」
大分大学 佐藤 新治

(2) リカレント教育論

- 1) 「文系のリカレント教育—地方大学のリカレント教育の試みを中心に—」
福島大学 氏家 達夫
- 2) 「理工系のリカレント教育」
横浜国立大学 朝倉 祝治
- 3) 「大学における生涯学習—英国UMISTの腐食防止センター」
慶應大学 小林 賢三

2. 課題・構造論

- (1) 「地域・社会創造と大学一小都市の地域づくり学習を中心として—」
長崎大学 猪山 勝利
- (2) 「大都市における「地域づくり」と「生涯学習」
—北海道札幌市における新たな胎動と高等教育機関の課題—」
北海道大学 小林 甫

3. システム論

- (1) 「大学と地域との連携システムに関する実証研究」

滋賀大学 神部 純一

- (2) 「大学開放の全学的位置づけに関する一考察」

徳島大学 廣渡 修一

III部 大学における生涯学習推進の比較研究

1. 「アメリカの高等教育機関と生涯学習」

同志社大学 山田 礼子

2. 「英国における生涯学習政策と高等教育の課題」

名古屋短期大学 左口 真朗

3. 「フランスにおける大学開放政策と大学・生涯教育センターにおける実践」

福島大学 萩路 貴司

4. 「カナダの大学における生涯学習の動向」

常磐大学 川島 淳一

5. 「オーストラリアにおける大学開放」

大阪教育大学 出相 泰裕

3 地域生涯学習支援システムの整備に向けて

本年度は、大分地域の生涯学習支援システムの整備に向けて、大別して以下の3つの取り組みを行った。

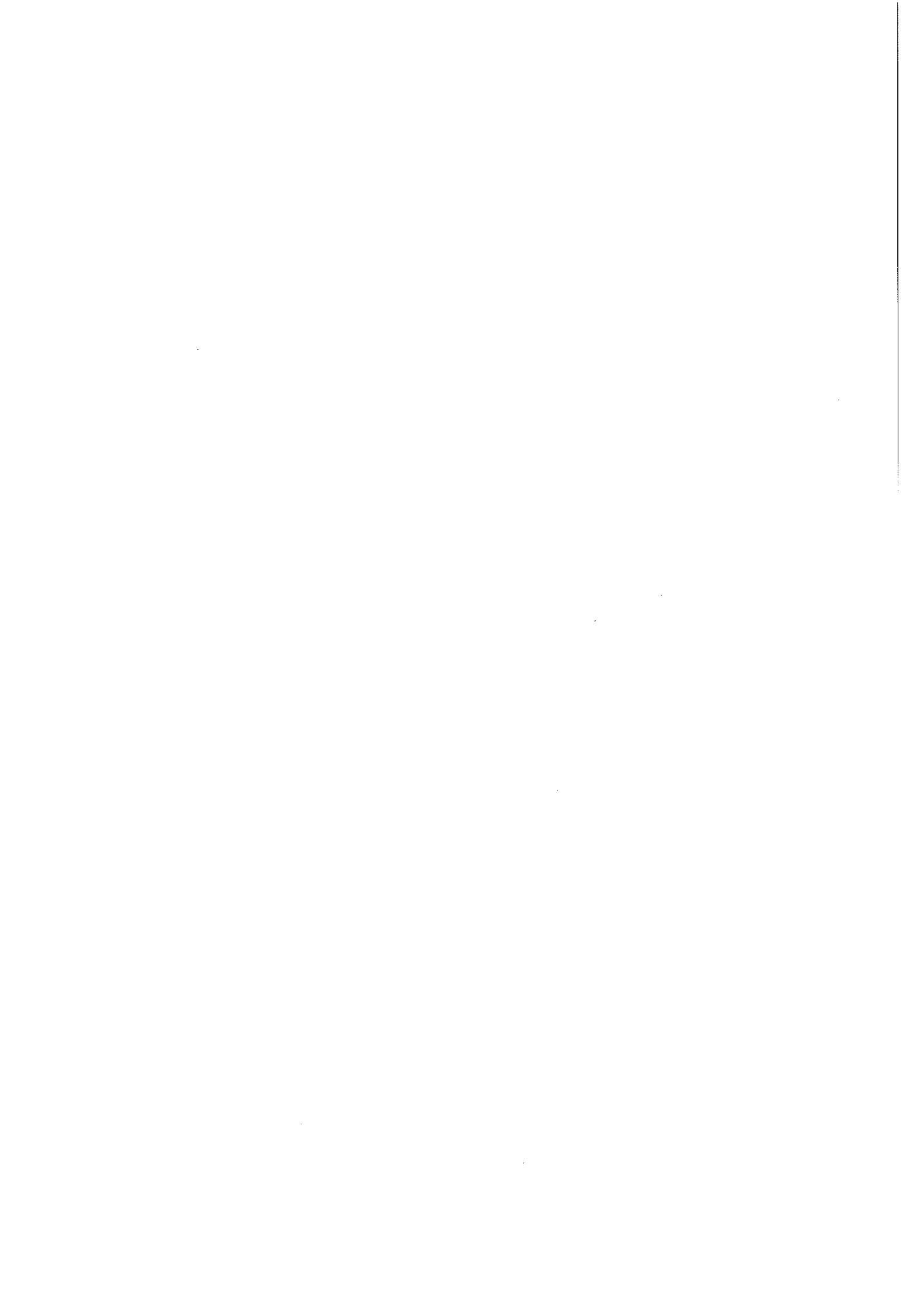
まず、「大分地域大学等生涯学習協議会」の機能高度化による生涯学習支援システム整備である。同協議会は大分地域における生涯学習機会の充実を目的として平成10年度より大分大学が事務局となって開催しているものである。平成12年度の協議会では、これまでの情報交換から一步踏み出して、具体的取り組みを行うよう提案が行われ、「県民の学習ニーズに関する調査研究の実施」、「協議会としての広報システムの整備」、「協議会あるいは複数機関の共催による学習プログラムの開設」の3点についてワーキンググループを設けてその実施可能性の検討や準備作業を行うこととなった。

次に、県や市町村の生涯学習担当行政部局との連携である。引き続きセンター長・専任教官が各種委員を務めているほか、本年度は日田教育事務所・玖珠町教育委員会と連携し、「大分大学生涯学習出張講座イン玖珠」を開催した。

最後に、本センターでは、学内のメディア教育検討部会および大分県の豊の国ハイパーネットワーク構想検討委員会社会教育部会に関与し、新しい情報ネットワークの活用方法などについて研究協議を行ってきた。本年度豊の国ハイパーネットワークの一部が整備され、平成13年度には同ネットワークの残りの部分や学内情報ネットワークの整備が進められる予定である。これを受け、複数拠点を結んだ双方向講座の実施やVODライブラリーの整備など遠隔学習機会の研究開発や事業の実施に取り組む必要がある。

来年度以降はこの3側面それぞれについてより具体的な取り組みを行い、連携の方策を探るとともに、大分地域の生涯学習機会の充実に貢献したい。

VI 資料



1 センター関係諸規則

1-(1)

大分大学生涯学習教育研究センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大分大学学則第6条の2第2項の規定に基づき、大分大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、生涯学習に関する研究・教育を行うとともに、学内及び学外の関係機関と連携を図り生涯学習並びに大学開放活動を推進し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 生涯学習並びにリカレント教育における大学の役割に関する調査・研究
- 二 生涯学習のプログラムに関する調査・研究
- 三 地域における生涯学習の現状及び学習ニーズの動向に関する調査・分析
- 四 生涯学習並びにリカレント教育におけるマルチメディアの利用等の新しい教育方法・手法に関する研究・開発
- 五 國際化の進展に対応する生涯学習の推進に関する研究
- 六 生涯学習に関する地域指導者の養成並びに指導
- 七 大学開放事業の推進
- 八 生涯学習についての情報提供並びに相談
- 九 生涯学習に係る諸団体との連絡・調整並びにネットワーク化の推進
- 十 その他センターの目的に必要な事項

(職員)

第4条 センターに次に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 専任教官
- 三 兼任教官（以下「センター員」という。） 各学部から各1名
- 四 その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長は、本学の教授のうちから、第8条の委員会の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の在任期間とする。

(専任教官)

第6条 専任教官は、教育研究に従事するとともに、センターの業務を行う。

2 専任教官の選考は、大分大学教員選考規則第1条第1項の規定にかかわらず、第8条の委員会の議に基づき、学長が行う。

(センター員)

第7条 センター員は、センター長に協力して、センターの業務を支援する。

2 センター員は、本学教官のうちから、学部長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の在任期間とする。

(管理委員会)

第8条 センターに関する管理運営の基本方針その他重要な事項を審議するため、大分大学生涯学習教育研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2 管理委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第9条 センターの円滑な運営を図るため、大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第10条 運営委員会に、業務に係る専門的事項について調査及び実施するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会については、別に定める。

(事務)

第11条 センターに関する事務は、庶務課において行う。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成10年4月9日から施行する。

2 この規則の施行後、最初に任命されるセンター長の選考については、第5条第2項の規定にかかわらず、従前の規則に基づいて大分大学生涯学習教育研究センター管理委員会の推薦する者について、学長が行うものとする。

3 この規則施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成12年3月31日までとする。

4 この規則施行の日に任用される専任教官の選考については、第6条第2項の規定にかかわらず、従前の規則に基づく大分大学生涯学習教育研究センター管理委員会の議に基づき、学長が行うものとする。

5 この規則施行後最初に任命されるセンター員の任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成12年3月31日までとする。

6 大分大学生涯学習教育研究センター規則（平成8年9月18日制定）、大分大学生涯学習教育研

究センター管理委員会規程（平成8年9月18日制定）及び大分大学生涯学習教育研究センター運
営委員会規程（平成8年9月18日制定）は、廃止する。

大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会規程

平成11年3月31日制定

(目的)

第1条 次に掲げる学内共同教育研究施設等（以下「センター等」という。）の管理のため、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「委員会」という。）の組織等について定める。

- 一 地域共同研究センター
- 二 生涯学習教育研究センター
- 三 機器分析センター
- 四 保健管理センター
- 五 情報処理センター
- 六 福祉科学研究センター
- 七 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる次項を審議する。

- 一 センター等の管理運営の基本方針に関すること。
- 二 センター長、所長、施設長、センターチ長、副施設長及び専任教員の選考に関すること。
- 三 センター等の予算、決算及び概算要求に関すること。
- 四 その他センター等の管理運営に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 学長
- 二 各副学長
- 三 学長特別補佐
- 四 各学部長（各研究科長）
- 五 附属図書館長
- 六 事務局長
- 七 各センター長、所長及び施設長

2 前項第6号の委員は、前条第2号に掲げる審議事項には加わらないものとする。

3 第1項第7号の委員は、他のセンター等の前条第2号に掲げる審議事項には加わらないものとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、地域連携推進室において処理する。

附 則（平成11年規則第43号）

1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

2 大分大学地域共同研究センター管理委員会規程（平成5年4月1日制定）、大分大学生涯学習教育研究センター管理委員会規程（平成8年9月18日制定）、大分大学情報処理センター管理委員会規程（平成2年6月8日制定）及び大分大学福祉科学研究センター管理委員会規程（平成10年4月15日制定）は、廃止する。

附 則（平成11年規則第48号）

この規程は、平成11年4月21日から施行する。

附 則（平成11年規則第51号）

この規程は、平成11年6月11日から施行する。

附 則（平成12年規則第16号）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

1-(3)

大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大分大学生涯学習教育研究センター規則（以下「センター規則」という。）

第9条第2項の規定に基づき、大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、大分大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関すること。
- 二 センターの事業計画に関すること。
- 三 その他センターの運営に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センター専任教官
- 三 センター員
- 四 図書館委員会委員から選出された者 1人
- 五 地域共同研究センター運営委員会委員から選出された者 1人
- 六 各学部から選出された教官 各2人

2 前項第4号、第5号及び第6号の委員は、学長が任命する。

3 第1項第4号、第5号及び第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 センター規則第10条第2項の規定に基づき、運営委員会に公開講座専門委員会を置く。

2 公開講座専門委員会の組織については、センターが別に定める。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は平成10年4月9日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命される第3条第6号の委員の任期は、同条第3項の規程にかかわらず、委員の半数については平成12年3月31日までとし、その他の委員については平成11年3月31日までとする。

1-(4)

大分大学生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程第7条第2項の規定に基づき、大分大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）に置かれる公開講座専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織について定める。

(組織)

第2条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
 - 二 センター専任教官
 - 三 センター運営委員会委員から選出された者 2人
 - 四 各学部教官のうちから選出された者 各1人
- 2 前項第3号及び第4号の委員は、センター長が委嘱する。
 - 3 第1第3号及び第4号の委員の任期は、2年とし再任を妨げない。
 - 4 第1項第3号及び第4号の委員が欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 専門委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第4条 専門委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 専門委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(雑則)

第6条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は専門委員会が定める。

附 記

- 1 この内規は、平成10年4月23日から実施する。
- 2 この内規実施後最初の第2条第1項第3号及び第4号の委員の任期は、同条第3項の規程にかかるらず、平成12年3月31日までとする。

平成12年度
大分大学生涯学習教育研究センター年報

発行日 平成13年3月31日
発 行 大分大学生涯学習教育研究センター
〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
TEL (097) 554-7641
<http://www.rclll.oita-u.ac.jp>
E-mail:orclll@cc.oita-u.ac.jp